

薬剤師のための

アンチ・ドーピング ガイドブック

平成16年7月

日本薬剤師会

埼玉県薬剤師会

日本体育協会アンチドーピング部会ドーピングデータベース作業班

はじめに

日本薬剤師会にとって、昨年1年間は「薬をコンビニ等の一般小売店で販売させよう」という総合規制改革会議との戦いに明け暮れました。しかし、その戦いの中で指摘を受けた薬剤師による薬に関する説明・相談体制の充実や夜間対応の整備などについては真摯に受け止め、会員へのさらなる徹底を図っているところであります。

実際上は、会員の多くが昔から一般用医薬品の販売にあたって顧客の相談に適切に対応し、夜間対応についても適宜対応してきたと考えております。しかしその一方で、社会からそのことが認知されていないことも事実であります。したがって、より一層、社会に見える形で医薬品の取り扱いに薬剤師が係っていくことの必要性を感じているところであります。その意味において、薬について詳しい薬剤師が一般用の医薬品の販売を通してアンチ・ドーピング活動に積極的に関与していくことは、薬剤師職能をアピールする上で有用な手段の一つと考えております。

ドーピングは、不公正であったり、危険を伴う行為であるだけでなく、スポーツ生命にも影響してしまいます。しかし、国体や高校総体に出場する選手の多くは、必ずしもスポーツドクター等の専門家の全面的支援を得られているわけではありません。そのため、風邪気味だからといってかぜ薬を、また、胃もたれがするからといって健胃消化剤を安易に購入して服用してしまい、検査で陽性になることもあります。

例え禁止薬物の知識があっても、包装に記載される成分で禁止薬物が含まれていないことを確認したとしても、それだけでは不十分です。健胃薬の成分であるホミカという生薬には、興奮物質として禁止されているストリキニーネが含有されており、服用すると検査で陽性になることもあります。薬剤師以外にこのことに気がつく人は殆どいないでしょう。

このような故意ではないドーピングを未然に防止する上で、最も実効を上げられる立場にいたるのが薬局の薬剤師です。昨年、静岡で開催された国体において実際に静岡県薬剤師会がこの活動に取り組み、このことを証明するだけでなく、社会的にも高い評価を得ております。

そこで、日本薬剤師会は「アンチドーピングに関する特別委員会」を設置し、本年度は埼玉で行われます夏と秋の国体における埼玉県薬剤師会の活動を支援しながら、薬剤師によるアンチ・ドーピング活動の全国展開を本格的に模索することになりました。

本書「薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック」は、その委員会活動の一環として日本体育協会アンチドーピング部会ドーピングデータベース作業班等の協力を得て作成されたものであります。是非、薬局現場等で大いに活用し、青少年の健全なスポーツ育成に貢献するとともに、薬剤師の存在をアピールしていただきたいと考えております。

なお、本ガイドブックの作成に際し、ご協力いただいた日本薬剤師会アンチ・ドーピングに関する特別委員会、日本体育協会アンチドーピング部会ドーピングデータベース作業班、埼玉県体育協会スポーツ科学委員会・アンチドーピング小委員会、彩の国まごころ国体実行委員会、埼玉県薬剤師会、静岡県薬剤師会の方々に心より感謝申し上げます。

2004年7月

日本薬剤師会
会長 中西敏夫

本書について

2004年1月1日、今までのオリンピックムーブメントアンチ・ドーピング規程(OMADC)がその役割を終え、世界アンチ・ドーピング規程(WADC)が発効し、すべての競技団体が国際基準の禁止リスト(p.34~35 参照)を利用することになりました。2004年埼玉県で開催される「彩の国まごころ国体」ではこの禁止リストが適用されます。

2004年禁止リストはOMADCと比べ、禁止物質にカンナビノイド類、糖質コルチコイド類が加えられ、 β_2 -作用薬が独立しました。

また、禁止物質の中で医薬品として広く市販され、ドーピング物質として乱用されにくく、不注意によりアンチ・ドーピング違反を誘いやすい物質が「指定物質」として指定され、これらの使用が競技能力の向上でないことを競技者が立証できれば制裁が軽くなる場合があります。

その他、禁止リストに掲載されていない物質のうち、競技における薬物乱用パターンを把握した方が得策であるとWADAが判断した場合、その物質に関する「監視プログラム(モニタリングプログラム)」を策定できるようになりました。

以上を踏まえて、「薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック」を作成しました。

1. 使用可能薬を探す

使用可能な医薬品を選択する場合には、まず、一般用医薬品(大衆薬; OTC Drugs)か医療用医薬品(Ethical Drugs)の「はじめに」を読んでください。次に、薬効別の四角に囲まれた(注意)を読み、<使用可能薬例>の表の中から商品名を探してください。

2. サプリメントなどの健康食品の対応について

特に気をつけたい市販の一般用医薬品の「その他」を参照してください。

基本的な対応は、

- ・化学種(有効成分)単独(ビタミン、補酵素)ならばそのもの自体はドーピング物質でない。
- ・天然物由来のもの、合成品であっても組成が明かでなくメーカーがその純度を保証しないものは判断ができない。
- ・個別の製品について、使用のお墨付きを与えるものではない。

ということを明らかにし、原則は「自己責任」であり、検査の際、採尿票に正しく申告するようアドバイスします。

また、JADA オフィシャルスポンサーシッププログラムにより認定されたスポーツドリンク、エネルギーアシスト系食品等の競技者が飲用、食用する機会が多い飲料及び食品もあります。1年ごとに更新されますので、下記の財団法人日本アンチ・ドーピング機構のホームページを参照してください。

<http://www.anti-doping.or.jp/sponsor/index.html>

3. 使用可能の可否に迷ったら

不明な点は本ガイドブックの『ホットラインサービス』にてご確認ください。決して安易な判断はしないでください。

目次

1. 使用可能薬リスト/一般用医薬品(大衆薬) : OTC DRUGS

(1) 解熱鎮痛薬	1
(2) 総合感冒薬	1
(3) 総合感冒薬【外用】	3
(4) 鎮咳・去痰薬	3
(5) 胃腸薬	3
胃炎・胃潰瘍、 腹痛(鎮痙・鎮痛薬)、 健胃・総合胃腸薬(配合薬)	
(6) 消化薬	5
(7) 便秘治療薬	5
(8) 整腸薬・下痢止め	6
(9) アレルギー用薬	6
(10) 吐き気・乗り物酔い予防薬	7
(11) 催眠・鎮静薬	7
(12) 鉄欠乏性貧血薬	7
(13) 痔疾用薬	8
(14) 鼻づまり(耳鼻用)	8
(15) 目薬(眼科用)	8
感染症、 ビタミン・疲れ目、 人工涙液・ドライアイ、 洗眼薬、 花粉症・抗アレルギー	
(16) うがい薬・口腔・咽喉薬	10
(17) 外皮用薬	10
殺菌消毒薬、 鎮痛・鎮痒・収れん・消炎薬	

2. 使用可能薬リスト/医療用医薬品 : ETHICAL DRUGS

(1) 解熱・鎮痛・抗炎症薬	12
ピリン系解熱鎮痛薬、 合剤(頭痛、感冒など)、 非ステロイド性抗炎症薬、 片頭痛治療薬	
(2) 中枢性筋弛緩薬	13
(3) 酵素製剤(消炎・繊維素溶解)	14
(4) 鎮咳・去痰薬	14
(5) 気管支拡張・喘息治療薬	14
(6) アレルギー治療薬	15
(7) 抗めまい薬(乗り物酔い予防)	16
(8) 胃腸薬	16
胃炎・胃潰瘍、 腹痛(鎮痙薬・粘膜分泌抑制薬)、 総合健腸薬(配合薬)、 胃腸機能調整薬	
(9) 総合消化酵素	17
(10) 便秘治療薬	18
(11) 止痢・整腸薬	18
(12) 高脂血症薬	19
(13) 血圧降下薬	19
Ca拮抗薬、 ACE阻害薬、 アンジオテンシン 受容体拮抗薬、 遮断薬	
(14) 抗狭心薬	20
(15) 催眠・鎮静・抗不安薬	20

(16)抗精神病薬(悪心・嘔吐).....	21
(17)抗うつ薬.....	21
(18)抗てんかん薬.....	21
(19)自律神経系作用薬.....	22
(20)鉄欠乏性貧血.....	22
(21)痛風・高尿酸血症治療薬.....	22
発作治療薬、尿酸排泄促進薬、尿酸生成阻害薬、尿アルカリ化薬	
(22)抗菌薬・抗生物質.....	23
(23)化学療法剤.....	24
(24)抗真菌薬.....	24
(25)抗ウイルス薬.....	24
(26)ワクチン(薬価基準適用外).....	25
(27)経口避妊薬(薬価基準適用外).....	25
(28)卵胞・黄体・混合ホルモン.....	25
(29)痔疾用薬.....	26
(30)耳鼻咽喉科用薬.....	26
(31)眼科用薬.....	27
感染症、ビタミン・疲れ目、アレルギー性結膜炎、その他	
(32)口腔用薬.....	28
(33)皮膚用薬.....	28
(34)消毒薬.....	28
(35)電解質補液.....	29

3. 特に気をつけたい市販の一般用医薬品(大衆薬).....	30
4. ドーピング検査 Q&A(WADA 禁止リスト).....	32
5. 略式手続について.....	37
6. 彩の国 まごころ国体医薬品等配備品目一覧(救護所用).....	38
7. まごころ国体ホットラインサービスについて.....	40
ドーピング禁止薬に関する問い合わせ専用用紙	
購入医薬品記載シート	
彩の国まごころ国体アンチドーピング活動に関するアンケート	

1. 使用可能薬リスト / 一般用医薬品(大衆薬) : OTC DRUGS

はじめに

ドーピング禁止物質を含まない薬品、あるいは禁止物質が含まれていても使用方法を守れば許可される国内の薬品の例をあげました。その使用方法については添付文書をよく読んでください。

おもに健康なスポーツ選手の急性の病気につかう内服薬、外用薬をあげています。

名前全体が完全に一致することを確かめてください。ほとんど同じような名前でも、頭に「新」が、終わりに「錠」や「会社名」がついているだけで組成が異なることもあります。

ここにあげた薬だけが許可されているわけではありません。一部の例示なので、他にも使える薬はたくさんあります。

製造が中止されているものもありますが、店頭で販売されていると思われるものをあげています。

(1) 解熱鎮痛薬

(注意)

カフェインは2004.1.1 禁止物質からモニタリング物質に変更となり使用可能であるが、検査結果は従来通り報告されることがある。

ほとんど同じような名前でも成分が全く異なることがある(バファリンと名前が付いてもアスピリンではないものもある)。

(例) バファリンA(アスピリン)、バファリンエル(アセトアミノフェン)

< 使用可能薬例 >

成分名	商品名	メーカー名
アスピリン	バイエルアスピリン	バイエル薬品-明治製菓
アスピリン・合成ヒドロタルサイト	バファリンA	ライオン
アセトアミノフェン	タイレノールA	ジョンソン・エンド・ジョンソン-武田薬品
アセトアミノフェン・エテンザミド・アリルイソプロピルアセチル尿素	セレナーデ	京都薬品-三共
イブプロフェン	イブ エコルネ クラライトA フェリア リングルアイビージェルカプセル	エスエス製薬 堀井薬品 龍角散 ダイト-武田薬品 佐藤製薬

(2) 総合感冒薬

かぜ薬について基本的な考え方

カフェイン、フェニルプロパノールアミン、ブソイドエフェドリンなどが禁止物質から外れたため、禁止物質を含む総合感冒薬は以前より減った。しかし、これらの薬剤は使用をモニターされる。また身体の中で禁止物質に変化して誤解される恐れのあるものもある。

いずれにせよ、かぜに直接に有効な薬はなく、症状にあわせて禁止物質を含まない薬を組み合わせ使用のほうが安全である。

(注意)

多くの総合感冒薬には禁止物質が含まれている。

競技会3日前までには服用を止める。

エフェドリン、麻黄(エフェドリン類)は禁止物質。(WADA 禁止リスト S1.興奮剤)

ほとんどの漢方薬(葛根湯など)には禁止物質が含まれている。

似たような名前でも処方異なるものに注意。(例)「ベンザ」や「ストナ」と名前がつくものは多数あるので、名前が完全に一致することを確認。

(例) ストナイビー、×ストナイビー顆粒

パブロンや新ルルシリーズには禁止物質(メチルエフェドリン、麻黄)が含まれている。

カフェイン、フェニルプロパノールアミン、プソイドエフェドリンは2004.1.1禁止物質からモニタリング物質に変更となり使用可能であるが、検査結果は従来通り報告されることがある。

<使用可能薬例>

成分名	商品名	メーカー名
アセトアミノフェン・マレイン酸クロルフェニラミン・クエン酸ペントキシベリン	コルゲンコーワ錠	興和-興和新薬
アスピリンアルミニウム・アセトアミノフェン・エテンザミド・地竜エキス散・塩酸ジフェニルピラリン・臭化水素酸デキストロメトルファン・グアヤコールスルホン酸カリウム・カンゾウエキス・セネガ乾燥エキス	ストナW	佐藤製薬
イブプロフェン・リン酸ジヒドロコデイン・グアヤコールスルホン酸カリウム・塩酸ジフェニルピラリン・無水カフェイン	ストナイビー	佐藤製薬
塩酸フェニルプロパノールアミン・塩酸ジフェニルピラリン・アセトアミノフェン・エテンザミド・リン酸ジヒドロコデイン・グアヤコールスルホン酸カリウム・無水カフェイン	ストナサイナス細粒	佐藤製薬
イブプロフェン・塩酸フェニルプロパノールアミン・マレイン酸クロルフェニラミン・リン酸ジヒドロコデイン、無水カフェイン	ベンザブロック	武田薬品
アセトアミノフェン・塩酸フェニルプロパノールアミン・マレイン酸クロルフェニラミン・リン酸ジヒドロコデイン・セラペプターゼ・無水カフェイン・水酸化アルミニウム・炭酸水素ナトリウム共沈物	ベンザブロックSP	武田薬品
アセトアミノフェン・塩酸フェニルプロパノールアミン・マレイン酸クロルフェニラミン・臭化水素酸デキストロメトルファン・セラペプターゼ・無水カフェイン・塩酸フルスルチアミン・リボフラビン	ベンザブロックSPカプセル	武田薬品
アセトアミノフェン・塩酸フェニルプロパノールアミン・マレイン酸クロルフェニラミン・リン酸ジヒドロコデイン・セラペプターゼ・無水カフェイン・水酸化アルミニウム・炭酸水素ナトリウム共沈物	ベンザブロックSP錠	武田薬品

イブプロフェン・塩酸フェニルプロパノールアミン・マレイン酸クロルフェニラミン・リン酸ジヒドロコデイン・無水カフェイン	ベンザブロック錠	武田薬品
アセトアミノフェン・サリチルアミド・マレイン酸クロルフェニラミン・塩酸ノスカピン・カフェイン・ビタミンC	新エスタック 12 新エスタック「W」	エスエス製薬

(3)総合感冒薬【外用】

<使用可能薬例>

成分名	商品名	メーカー名
dl-カンフル・テレピン油・1-メントール・ユーカリ油・ニクズク油・杉葉油	ヴィックスヴェポラップ	大正製薬

(4)鎮咳・去痰薬

(注意)

エフェドリン、麻黄(エフェドリン類)、メチルエフェドリン、メトキシフェナミン、トリメトキノールは禁止。(WADA 禁止リスト S1.興奮剤)

フェニルプロパノールアミン、プソイドエフェドリンは2004.1.1禁止物質からモニタリング物質に変更となり使用可能であるが、検査結果は従来通り報告されることがある。

リン酸コデイン 100倍散は可。(100倍散以外は麻薬。)

<使用可能薬例>

成分名	商品名	メーカー名
リン酸ジヒドロコデイン・塩化リゾチーム・マレイン酸クロルフェニラミン	エスエスプロン「カリュー」	エスエス製薬
臭化水素酸デキストロメトर्फアン・ジプロフィリン・塩化リゾチーム	スカイナーせき・たん用	エーザイ
フェノールフタリン酸デキストロメトर्फアン・グアヤコールスルホン酸カリウム・塩化セチルピリジニウム	ストナコフドロップ	佐藤製薬
リン酸ジヒドロコデイン・塩化リゾチーム・マレイン酸クロルフェニラミン	新ルピカップ	日水製薬

(5)胃腸薬 < 胃炎・胃潰瘍、腹痛(鎮痙・鎮痛薬)、健胃・総合胃腸薬(配合薬) >

(注意)

ホミカ(ストリキニーネ)は禁止。(WADA 禁止リスト S1.興奮剤)

ホミカ(ストリキニーネ)を含むものは競技会1週間前までには服用を止める。

似たような名前で処方が異なるものに注意。

(例) イノセア胃腸内服液、×イノセア消化薬

ワクナガ胃腸薬U、×ワクナガ胃腸薬G

局所麻酔薬(オキセサゼイン:スイッチOTC薬)は2004.1.1から使用可能。

< 使用可能薬例 胃炎・胃潰瘍 >

成分名	商品名	メーカー名
シメチジン	アルサメック錠、細粒	佐藤製薬
シメチジン・ケイ酸アルミン酸マグネシウム・炭酸水素ナトリウム・合成ヒドロタルサイト	ザッツブロック、錠 センロックエース、錠 スカイジン 住友胃腸薬スコープ	住友製薬-武田薬品 住友製薬-第一製薬 住友製薬-住友製薬ヘルスケア、日東薬品、日邦薬品 住友製薬-住友製薬ヘルスケア
シメチジン・アルジオキサ・ケイ酸アルミン酸マグネシウム	パンシロンH2 ベスト フロンティア錠	藤沢薬品-ロート製薬 藤沢薬品
塩酸ラニチジン・ケイ酸アルミン酸マグネシウム・酸化マグネシウム・水酸化アルミナマグネシウム	三共Z胃腸薬 アバロンZ	三共 大正製薬
ファモチジン	ガスター10、散	山之内製薬
乾燥水酸化アルミニウムゲル・水酸化マグネシウム・ジメチルポリシロキサン（ジメチコン）	マーロックスプラスチュアブル	山之内製薬

< 使用可能薬例 腹痛（鎮痙・鎮痛薬） >

成分名	商品名	メーカー名
臭化ブチルスコポラミン	ストマオフ糖衣錠 ブスコパンA錠 ブチスコミン ブスポンS	ダイト-ゼリア新薬 日本ベーリンガーインゲルハイム-エスエス 佐藤製薬 東洋ファルマー-小林薬品・三友薬品
臭化ブチルスコポラミン・メタケイ酸アルミン酸マグネシウム	ブスコパンMカプセル	日本ベーリンガーインゲルハイム-エスエス
塩酸ジサイクロミン・乾燥水酸化アルミニウムゲル・酸化マグネシウム	コランチルA顆粒	塩野義製薬

< 使用可能薬例 健胃・制酸・総合胃腸薬（配合薬） >

成分名	商品名	メーカー名
ロートエキス・ケイ酸アルミン酸マグネシウム・スクラルファート	中外胃腸薬細粒	中外製薬
ロートエキス・スクラルファート・合成ヒドロタルサイト・ケイ酸アルミン酸マグネシウム・アズレンスルホン酸ナトリウム・L-グルタミン	新中外胃腸薬顆粒	中外製薬
ロートエキス（10倍散）・炭酸水素ナトリウム・リパーゼAP6・ジアスマンSS・スクラルファート	中外胃腸薬	中外製薬
ロートエキス・メタケイ酸アルミン酸マグネシウム・スクラルファート・スクラルファート・ソウジュツ乾燥エキス	イノセアグリーン	佐藤製薬
メタケイ酸アルミン酸マグネシウム・スクラルファート・合成ヒドロタルサイト・コウボク流エキス・ソウジュツ流エキス	イノセア胃腸内服液	佐藤製薬
ロートエキス・銅クロロフィリンカリウム・水酸化マグネシウム・無水リン酸水素カルシウム	サクロンS錠	サンノーバ-エーザイ
ロートエキス・銅クロロフィリンナトリウム・アルジオキサ・乾燥水酸化アルミニウムゲル・水酸化マグネシウム・酸化マグネシウム	シグナル胃腸薬グリーン	エスエス製薬
ロートエキス・炭酸水素ナトリウム・メタケイ酸アルミン酸マグネシウム・ヒドロタルサイト・ケイヒ・ウイキョウ・チョウジ・プロザイム・ピオチアスターゼ・ニューラーゼ	新大正胃腸薬	大正製薬

ロートエキス・炭酸水素ナトリウム・重質炭酸マグネシウム・水酸化アルミナマグネシウム・ジアスメンSS・プロザイム・沈降炭酸カルシウム・ケイヒ・ケイヒ油・シユクシャ・センブリ・L-グルタミン	パンシロンG	ロート製薬
水酸化マグネシウム	小粒ミルマグ錠 スイマグ	エムジーファーマ 三保製薬研究所
タカヂアスターゼ・リパーゼAP12・有孢子性乳酸菌・アカメガシワエキス・カンゾウ末・ケイ酸アルミン酸マグネシウム・水酸化マグネシウム・合成ヒドロタルサイト・オウバク末・ケイヒ末・ウイキョウ末・チヨウジ末・ショウキョウ末・1-メントール	新三共胃腸薬細粒	三共
合成ヒドロタルサイト・沈降炭酸カルシウム・ロートエキス散・アルジオキサ・アズレンスルホン酸ナトリウム	ワクナガ胃腸薬U	湧永製薬
乾燥酵母	エビオス錠	アサヒフードアンドヘルスケア
ウルソデオキシコール酸・ピオジアスターゼ2000・リパーゼAP6・ケイヒ末・ウイキョウ末・ゲンチアナ末	ハイウルソ顆粒	三菱ウエルファーマ-佐藤製薬

(6)消化薬

< 使用可能薬例 >

成分名	商品名	メーカー名
タカヂアスターゼN1	新タカヂア錠	三共

(7)便秘治療薬

(注意)

女性薬の便秘効果薬に注意。カタカナ表記でも漢方薬のものがある。

(例) × コッコアポA錠・S錠 (防風通聖散のため禁止物質エフェドリン類含有)

< 使用可能薬例 >

成分名	商品名	メーカー名
アロエ末	アロエ錠	各社
アロエエキス・センノシド	新サラリン	大塚製薬
センナ成分(末・エキス・実・実末・センノシド)	センナ	各社
センナ実・プランタゴオバタ種子	サトラックス	佐藤製薬
センノシド・プランタゴオバタ種子	ウィズワン	ゼリア新薬
センナ末・ダイオウ末	ハイベン	大杉製薬
センノシド・ピサコジル	カイベールC	アラクス
センノシドカルシウム・ピフィズス菌	ピフィーナ便秘薬	森下仁丹
ピサコジル	コーラック	大正製薬
ピサコジル・ジオクチルソジウムスルホサクシネート・塩酸ピリドキシン	サトラックスエース	佐藤製薬
ピコスルファートナトリウム	ピコラックス	佐藤製薬

グリセリン	イチジク浣腸 グリセリン浣腸	イチジク製薬 各社
酸化マグネシウム	スルーシア	佐藤薬品工業

(8) 整腸薬・下痢止め

< 使用可能薬例 >

成分名	商品名	メーカー名
塩酸ロペラミド	イノック下痢止め シグナル下痢止め	湧永製薬 エスエス製薬
タンニン酸アルブミン・ゲンノショウコエキス・ロートエキス・フェカリス菌末	ビオフェルミン止瀉薬	ビオフェルミン製薬-武田薬品
ビオラクチス原末・ピフィズス菌原末	ヤクルト B L 整腸薬	ヤクルト本社
ピフィズス菌・ラクトミン	わかもと整腸薬	わかもと製薬
宮入菌末	強ミヤリサン(錠)	ミヤリサン
コンクアシドフィルス菌末・コンクピフィズス菌末・コンクフェカリス菌末	新ビオフェルミン S 錠・S 細粒	ビオフェルミン製薬-武田薬品

(9) アレルギー用薬

(注意)

ステロイド剤は禁止。(WADA 禁止リスト S9.糖質コルチコイド類)
ステロイド入り軟膏・点眼・点鼻は事前に医師による『略式手続』が必要。
フェニルプロパノールアミンは 2004.1.1 禁止物質からモニタリング物質に変更となり使用可能であるが、検査結果は従来通り報告されることがある。
市販のアレルギー薬には禁止物質やモニタリング物質の配合薬が多い。

< 使用可能薬例 >

成分名	商品名	メーカー名
メキタジン	リニカット リリース錠	ダイト-山之内製薬 アズウェル
塩酸ジフェンヒドラミン	レスタミンコーワ糖衣錠	興和新薬
マレイン酸クロルフェニラミン・グルコン酸カルシウム・アスコルビン酸	タミナス A 錠	湧永製薬
マレイン酸クロルフェニラミン・グリチルリチン酸二カリウム	プラタギン	三宝製薬
マレイン酸クロルフェニラミン・グリチルリチン酸カリウム・リン酸ピリドキサル	アレギトール	日邦薬品工業
マレイン酸クロルフェニラミン・グリチルリチン酸カリウム・塩酸ピリドキシン・グルコン酸カルシウム	アレルギーール錠	三共
マレイン酸クロルフェニラミン・グリチルリチン酸アンモニウム・塩酸ピリドキシン・リボフラビン	アネミン内服錠	日水製薬

(10)吐き気・乗り物酔い予防薬

(注意)

カフェインは 2004.1.1 禁止物質からモニタリング物質に変更となり使用可能であるが、検査結果は従来通り報告されることがある。

<使用可能薬例>

成分名	商品名	メーカー名
塩酸メクリジン	センパア S タイザー	大正製薬 テイカ製薬-ファイザー製薬
塩酸メクリジン・臭化水素酸スコポ ラミン	センパア	大正製薬
塩酸メクリジン・d-マレイン酸クロ ルフェニラミン・ビタミン B6	アネロンチュアブル	エスエス製薬
塩酸メクリジン・ジプロフィリン	スヨロミン	三宝製薬
ジメンヒドリナート	ドライブソフト A	長生堂製薬
サリチル酸ジフェンヒドラミ ン・ジプロフィリン	トラベルミン	エーザイ

(11)催眠・鎮静薬

(注意)

パフォーマンスの低下と競技中の事故に注意！

<使用可能薬例>

成分名	商品名	メーカー名
塩酸ジフェンヒドラミン	ドリエル	エスエス製薬
ブロムワレリル尿素・アリルイソ プロピルアセチル尿素・塩酸ジフェ ンヒドラミン	ウット	伊丹製薬

(12)鉄欠乏性貧血薬

(注意)

生薬由来成分が配合されている鉄剤は注意。

<使用可能薬例>

成分名	商品名	メーカー名
フマル酸第一鉄・硫酸銅・硫酸コバ ルト・硫酸マンガン・ビタミン B12 ・ビタミン E 酢酸エステル・ビタミ ン B6・ビタミン C・葉酸・肝臓末・ 銅クロロフィリンカリウム・銅クロ ロフィリンナトリウム	エミネトン	佐藤製薬
マスチゲン・ビタミン B1 硝酸塩・ ビタミン B2・フマル酸第一鉄・ビタ ミン B12・ビタミン E 酢酸エステ ル・ビタミン B6・ニコチン酸アミ ド・ビタミン C・葉酸・リン酸水素 カルシウム・硫酸銅・硫酸コバルト	マスチゲン - S錠	日本臓器製薬
溶性ピロリン酸第二鉄・シアノコバ ラミン	ヘマニック	全薬
溶性ピロリン酸第二鉄・シアノコバ ラミン・ビタミン B6	フマレッドカプセル	エスエス製薬

(13)痔疾用薬

(注意)

多くの坐薬・軟膏にはステロイドなどの禁止物質が含まれている。

似たような名前で処方が異なるものに注意。

(例) ボラギノールM軟膏、×ボラギノールA注入軟膏

ステロイド入り軟膏は事前に医師による『略式手続』が必要。

<使用可能薬例>

成分名	商品名	メーカー名
静脈血管叢エキス	ヘモリンド舌下錠	扶桑薬品
セイヨウトチノミエキス・コハク酸dl-トコフェロール・アスコルビン酸ナトリウム・センノシドA&Bカルシウム	内服ヘルミチンA	佐藤薬品-藤沢薬品
セイヨウトチノキ種子エキス・ビタミンE酢酸エステル・ポタンピエキス・シコン水製エキス	内服ボラギノールEP	天藤製薬-武田薬品
セイヨウトチノミエキス・イノシトールヘキサニコチネート・コハク酸トコフェロールカルシウム・カルバゾクロム・センノシドカルシウム	エスジール錠	エスエス製薬
アミノ安息香酸エチル・タンニン酸・dl-カンフル・カカオ脂・アミノエチルスルホン酸	タウリン坐薬	湯の川製薬
バイモ・ダイフウシ・ニンジン・ダイオウ・ケイヒ・カンゾウ・ミツロウ・ゴマ油	不思議膏	ヒサヤ大黒堂
リドカイン・グリチルレチン酸・アラントイン・ビタミンE酢酸エステル	ボラギノールM軟膏	天藤製薬-武田薬品

(14)鼻づまり(耳鼻用)

(注意)

多くの点鼻薬には硝酸ナファゾリンなどの血管収縮剤やステロイドなどの禁止物質または関連物質が含まれている。

ステロイド入り点鼻薬は事前に医師による『略式手続』が必要。

硝酸ナファゾリンなどの血管収縮剤の点鼻などの局所使用は許される。しかし、何回も多量に使用して体内に吸収されると、ドーピング違反が疑われる可能性がある。

<使用可能薬例>

成分名	商品名	メーカー名
クロモグリク酸ナトリウム・塩酸ナファゾリン・マレイン酸クロルフェニラミン	アルガードCT鼻炎スプレー エージーノーズ ナザールブロック	藤沢薬品-ロート製薬 藤沢薬品 藤沢薬品-佐藤製薬

(15)目薬<感染症・ビタミン類・疲れ目・人工涙液・ドライアイ・洗眼液・花粉症・抗アレルギー>

(注意)

ステロイド入り点眼薬は事前に医師による『略式手続』が必要。

< 使用可能薬例 感染症 >

成分名	商品名	メーカー名
スルファメトキサゾールナトリウム・グリチルリチン酸二カリウム・コンドロイチン硫酸ナトリウム・アミノエチルスルホン酸	抗菌アイリス	ファーマバック-大正製薬
スルファメトキサゾール・グリチルリチン酸二カリウム	ノアール SG ノアールワン SG マイティア抗菌目薬	佐藤製薬 佐藤製薬 千寿製薬-武田薬品
スルファメトキサゾール・グリチルリチン酸二カリウム・マレイン酸クロルフェニラミン・アミノエチルスルホン酸	サンテ抗菌新目薬	参天製薬
スルファメトキサゾールナトリウム・グリチルリチン酸二カリウム・マレイン酸クロルフェニラミン・イブシロン-アミノカブロン酸	ロート抗菌目薬 G	ロート製薬

< 使用可能薬例 ビタミン類・疲れ目 >

成分名	商品名	メーカー名
マレイン酸クロルフェニラミン・塩酸ピリドキシン・シアノコバラミン・アミノエチルスルホン酸	サンテドウ	参天製薬
塩酸テトラヒドロゾリン・メチル硫酸ネオスチグミン・グリチルリチン酸二カリウム・マレイン酸クロルフェニラミン・塩酸ピリドキシン・コンドロイチン硫酸ナトリウム・アミノエチルスルホン酸	アイリス Rinc	大正製薬
メチル硫酸ネオスチグミン・イブシロン-アミノカブロン酸・マレイン酸クロルフェニラミン・塩酸ピリドキシン・酢酸 d- トコフェロール・アミノエチルスルホン酸・パンテノール	サンテ 40 ハイ	参天製薬

< 使用可能薬例 人工涙液・ドライアイ >

成分名	商品名	メーカー名
塩化ナトリウム・塩化カリウム	レンズティア S	参天製薬-エイエムオー-ジャパン
塩化ナトリウム・塩化カリウム・結晶リン酸二水素ナトリウム	アスパラ目薬ソフト	テイカ製薬-田辺製薬
塩化ナトリウム・塩化カリウム・リン酸二水素ナトリウム	なみだロートコンタクト	ロート製薬
塩化ナトリウム・塩化カリウム・塩化カルシウム	マイティアプラス	千寿製薬-武田薬品
塩化ナトリウム・L-アスパラギン酸カリウム・アミノエチルスルホン酸	スマイルコンタクト	日東メディック-ライオン
塩化ナトリウム・塩化カリウム・アミノエチルスルホン酸	アイリス CL-I ネオ	ファーマバック-大正製薬

< 使用可能薬例 洗眼薬 >

成分名	商品名	メーカー名
イブシロン-アミノカブロン酸・マレイン酸クロルフェニラミン・コンドロイチン硫酸ナトリウム・グリチル	アイボン	日東メディック-小林製薬

リチン酸二カリウム・塩酸ピリドキシン・酢酸トコフェロール		
イブシロン-アミノカプロン酸・マレイン酸クロルフェニラミン・コンドロイチン硫酸ナトリウム・アミノエチルスルホン酸・L アスパラギン酸カリウム・グリチルリチン酸二カリウム	洗眼アイリス	日本点眼薬研究所-大正製薬
イブシロン-アミノカプロン酸・マレイン酸クロルフェニラミン・グリチルリチン酸二カリウム・塩酸ピリドキシン・アミノエチルスルホン酸	フレッシュアイ AG	日本点眼薬研究所-藤沢薬品

< 使用可能薬例 花粉症・抗アレルギー >

成分名	商品名	メーカー名
クロモグリク酸ナトリウム・マレイン酸クロルフェニラミン	アルガード CT 点眼薬 ノアールアレジ	テイカ製薬-ロート製薬 藤沢薬品-佐藤製薬

(16)うがい薬・口腔・咽喉薬

< 使用可能薬例 >

成分名	商品名	メーカー名
ポピドンヨード	浅田飴のどクールスプレー イソジンうがい薬 サリキスU ネオヨジンうがいぐすり	浅田飴 明治製菓 ジャパンメディック-浅田飴 岩城製薬
グルコン酸クロルヘキシジン	パブロンうがい薬	大正製薬
塩化ベンゼトニウム	ルルうがい液	三共
塩化セチルピリジニウム・塩化リゾチーム・グリチルリチン酸二カリウム・マレイン酸クロルフェニラミン	エスエスプロントローチ <クール>	エスエス製薬
塩酸クロルヘキシジン・塩化リゾチーム・グリチルリチン酸二カリウム	スカイナートローチ	サンノーバ-エーザイ
塩酸クロルヘキシジン・塩化リゾチーム・グリチルリチン酸二カリウム	ダントローチ・エース	佐藤薬品-住友製薬・住友製薬ヘルスケア

(17)外皮用薬 < 殺菌消毒薬、鎮痛・鎮痒・収れん・消炎薬 >

(注意)

多くの軟膏にはステロイドなどの禁止物質が含まれている。
ステロイド入り軟膏は事前に医師による『略式手続』が必要。
似たような名前でも処方異なるものに注意。

(例) オイラックスクール液、×オイラックスHクリーム

< 使用可能薬例 - 殺菌消毒薬 >

成分名	商品名	メーカー名
ポピドンヨード	イソジン S ケンエーイオダイン	明治製薬 健栄製薬
オキシドール	オキシドール	各社

塩化ベンザルコニウム	オスバンS ラビネットP	日本製薬-武田薬品 建栄製薬
グルコン酸クロルヘキシジン	オロナインH軟膏 ヒビスコールS	大塚製薬 サラヤ

<使用可能薬例 - 鎮痛・鎮痒・収れん・消炎薬>

成分名	商品名	メーカー名
インドメタシン	インドメサール	東光薬品-ゼリア新薬
インドメタシン・l-メントール	バンテリンコーワ トクホン ID ソリューション	興和-興和新薬 トクホン
サリチル酸グリコール・l-メントール ・グリチルレチン酸	アイスラブ スプレー	ロート製薬
サリチル酸メチル・サリチル酸グリ コール・l-メントール・グリチルレチ ン酸・ユーカリ油・dl-カンフル	エアーサロンパス EX	久光製薬
サリチル酸メチル・l-メントール・dl- カンフル・ノニル酸ワニリルアミ ド・マレイン酸クロルフェニラミ ン・チモール	アンメルツヨココ	小林製薬
サリチル酸メチル・l-メントール・ハ ッカ油・dl-カンフル・ノニル酸ワ ニリルアミド・ビタミンE酢酸エチル	メンフラ A	大協薬品-大正製薬
サリチル酸メチル・サリチル酸グリ コール・l-メントール・dl-カンフル・ ニコチン酸ベンジルエステル・チモ ール・ユーカリ油・カプサイシン	サロメチール	三菱ウェルファーマ-佐藤製薬
サリチル酸グリコール・l-メントール ・ノニル酸ワニリルアミド・酢酸 トコフェロール・グリチルリチン酸	チールA	トクホン
サリチル酸グリコール・l-メントール ハッカ成分・dl-カンフル・酢酸トコ フェロール・グリチルリチン酸	キュウパップクール	山之内製薬
クロタミトン・リドカイン・イソブ ロピルメチルフェノール・ジフェン ヒドラミン・l-メントール・dl- カンフル	オイラックスクール	藤沢薬品

2. 使用可能薬リスト / 医療用医薬品 : ETHICAL DRUGS

はじめに

ドーピング禁止物質を含まない薬品、あるいは禁止物質が含まれていても使用方法を守れば許可される国内の薬品の例をあげました。その使用方法については添付文書をよく読んでください。

使用可能リストの商品は、主要なもののみ記載してあります。「他」と書いてあるものは記載以外にも商品があることを意味します。メーカー名は（製造会社・販売会社）です。

ここにあげた薬だけが許可されているわけではありません。他にも使える薬はあります。

(1) 解熱・鎮痛・抗炎症薬 < 非ピリン系解熱鎮痛薬、 合剤、 非ステロイド性抗炎症薬、片頭痛治療薬 >

< 使用可能薬例 非ピリン系解熱鎮痛薬 >

成分名	商品名（メーカー名）
アセトアミノフェン（パラセタモール）	ピリナジン（山之内）、カロナール（昭和薬化工）他

< 使用可能薬例 合剤（頭痛、感冒など） >

かぜ薬について基本的な考え方

カフェインなどが禁止物質から外れたため、禁止物質を含む総合感冒薬は少なくなった。しかし、これらの薬剤は使用をモニターされる。また身体の中で禁止物質に変化して誤解される恐れのあるものもある。

いずれにせよ、かぜに直接に有効な薬はなく、症状にあわせて禁止物質を含まない薬を組み合わせ使用するほうが安全である。

（注意）

カフェインは 2004.1.1 禁止物質からモニタリング物質に変更となり使用可能であるが、検査結果は従来通り報告されることがある。

成分名	商品名（メーカー名）
アンチピリン・カフェイン・クエン酸	ミグレニン（各社）他
シメトリド・無水カフェイン	キョーリン AP2 顆粒（杏林）
サリチルアミド・アセトアミノフェン・無水カフェイン・メチレンジサリチル酸プロメタジン	PL 顆粒（塩野義）、幼児用 PL 顆粒（塩野義）、ピーエイ錠（全星-三菱ウェルファーマ）他
サリチルアミド・アセトアミノフェン・無水カフェイン・マレイン酸クロルフェニラミン	ペレックス顆粒（大鵬）、ペレックス 1/6 顆粒（大鵬）、LL シロップ（三共-和光堂）他
アスピリン・ダイアルミネート	バファリン（ライオン-ブリストル）他
イソプロピルアンチピリン・アセトアミノフェン・アリルイソプロピルアセチル尿素・カフェイン	SG 顆粒（塩野義）

< 使用可能薬例 非ステロイド性抗炎症薬 >

成分名	商品名(メーカー名)
酸性抗炎症薬	
アスピリン(アセチルサリチル酸)	アスピリン(各社)
メフェナム酸	ポンタール(三共)他
ジクロフェナクナトリウム	ナポールSR(エスエス)、ポルタレン(チバガイギー、同仁-ノバルティス)他
スリンダク	クリノリル(万有-杏林)他
アンフェナクナトリウム	フェナゾックス(明治製菓-日研)
インドメタシン	インダシン(万有)、インテパン(住友)
インドメタシンファルネシル	インフリー(エーザイ)
アセメタシン	コバメタシン(小林化工)、ランツジールコーワ(興和)
ナブメトン	レリフェン(三和化学)
イブプロフェン	ブルフェン(科研)他
ケトプロフェン	オルヂス(アボット)、カピステン(キッセイ)、メナミン(アベンティス-中外)他
フルルピプロフェン	フロベン(科研)他
オキサプロジン	アルボ(大正)他
ナプロキセン	ナイキサン(田辺)他
ブラノプロフェン	ニフラン(三菱ウェルファーマ)他
ロキソプロフェンナトリウム	ロキソニン(三共)他
アルミノプロフェン	ミナルフェン(ユーシービー-マルホ)
ザルトプロフェン	ソレトン(日本ケミファ)、ペオン(ゼリア)
ピロキシカム	バキソ(富山化学-大正富山)他
アンピロキシカム	フルカム(ファイザー-大正富山)
テノキシカム	チルコチル(中外-杏林)他
塩基性抗炎症薬	
エピリゾール(メピリゾール)	メプロン(第一)他
塩酸チアラミド	ソランタール(藤沢)他
その他	
ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ノイロトロピン(日本臓器)

< 使用可能薬例 片頭痛治療薬 >

成分名	商品名(メーカー名)
メシル酸ジヒドロエルゴタミン	ジヒデルゴット(チバガイギー-ノバルティス)、ヒポラール(ゲラン-武田)他
ゾルミトリプタン	ゾーミッグ(アストラゼネカ)
コハク酸スマトリプタン	イミグラン(グラクソ・スミスクライン)
臭化水素酸エレクトリプタン	レルパックス(ファイザー)
塩酸ロメリジン	テラナス(オルガノン)、ミグシス(ファイザー)

(2)中枢性筋弛緩薬

< 使用可能薬例 >

成分名	商品名(メーカー名)
塩酸エベリゾン	ミオナール(エーザイ)他
カルバミン酸クロルフェネシン	リンラキサー(大正-大正富山)他
アフロクアロン	アロフト(田辺)他
塩酸チザニジン	テルネリン(チバガイギー-ノバルティス)他

(3) 酵素製剤（消炎・繊維素溶解）

< 使用可能薬例 >

成分名	商品名（メーカー名）
セラペプターゼ	ダーゼン（武田）他
塩化リゾチーム	アクディーム（グレラン-武田）、ノイチーム（エーザイ）、レフトーゼ（日本新薬）他
プロメライン	キモタブS（持田）、エデマーゼ（ジェイドルフ）
プロメライン・リブシン	キモタブ（持田）

(4) 鎮咳・去痰薬

（注意）

リン酸コデインは麻薬。（100倍散は除く）

モルヒネ/コデイン比は 2004.1.1 禁止物質からモニタリング物質となり使用可能であるが、検査結果は従来通り報告されることがある。

< 使用可能薬例 >

成分名	商品名（メーカー名）
中枢性鎮咳薬	
リン酸コデイン	リン酸コデイン（各社）
リン酸ジメモルファン	アストミン（山之内）他
ヒベンス酸チペピジン	アスベリン（田辺）他
グアイフェネシン	フストジル（京都-住友）
臭化水素酸デキストロメトルファン	ハイフスタンM（マルコ）、メジコン（武州-塩野義）他
臭化水素酸デキストロメトルファン・クレゾールスルホン酸カリウム	メジコンシロップ（塩野義）他
塩酸ホミノベン	ノレブタン（ベーリンガー）
塩酸クロペラスチン	フスタゾール（三菱ウェルファーマ）
塩酸エブラジノン	レスブレン（中外）他
去痰薬	
塩酸アンプロキシソール	ムコソルバン（帝人）、アンブロン（日本ユニバーサル）、フストレス（大洋-昭和薬化工）、ムコサール（日本ベーリンガー）他
カルボシステイン	ムコダイン（杏林）他
塩酸ブロムヘキシソール	ピソルボン（ベーリンガー）他

(5) 気管支拡張・喘息治療薬

（注意）

2-作用薬は禁止。（WADA 禁止リスト S6. 2-作用薬）

禁止物質「2-作用薬」のうち、喘息および運動誘発性喘息発作の予防と治療を目的とした吸入（サルメテロール、サルブタモール*、フォルモテロール**、テルブタリン**）に限り使用が認められるが、事前に『略式手続』が必要。

* 治療目的使用の許可が出ていても 1000ng/ml 以上は違反が疑われる分析結果として扱われる。

** フォルモテロール、テルブタリンの吸入は日本未発売。

ステロイドの吸入は事前に『略式手続』が必要。

< 使用可能薬例 >

成分名	商品名(メーカー名)
キサンチン誘導体 テオフィリン	スローピッド(ヘキサール-アペンティス、ファイザー)、テオドール(三菱ウェルファーマ-日研)、テオロング(エーザイ)、ユニフィル(大塚)他
コリンテオフィリン	テオコリン(サンノーバ-エーザイ)
アミノフィリン	アルピナ坐剤(エスエス)、キョーフィリン注射(杏林)、ネオフィリン(サンノーバ、エーザイ)他
抗コリン薬(吸入) 臭化イプラトロピウム	アトロベントエロゾル(帝人)
臭化オキシトロピウム	テルシガンエロゾル(ベーリンガー)

< 使用可能薬例-吸入(2-作用薬): 事前に『略式手続』が必要 >

成分名	商品名(メーカー名)
硫酸サルブタモール	サルタノールインヘラー(グラクソ・スミスクライン)、ベネトリン吸入液(グラクソ・スミスクライン-三共)、アイロミール(大日本)
キシナホ酸サルメテロール	セレベントロタディスク(グラクソ・スミスクライン)

(6)アレルギー治療薬

(注意)

ステロイド剤は禁止。(WADA 禁止リスト S9.糖質コルチコイド類)

ステロイド入り軟膏・点眼・点鼻は事前に『略式手続』が必要。

フェニルプロパノールアミンは2004.1.1 禁止物質からモニタリング物質に変更となり使用可能であるが、検査結果は従来通り報告されることがある。

< 使用可能薬例 >

成分名	商品名(メーカー名)
抗ヒスタミン薬 塩酸ジフェンヒドラミン	ベナ(田辺)、レスタミン(興和)ベナスミン注射(東和)、レスミン注射(日新-山形)他
タンニン酸ジフェンヒドラミン	レスタミンA(興和)
塩酸ジフェニルピラリン	ハイスタミン注射(エーザイ)
フマル酸クレマスチン	タベジール(チバガイギー-ノバルティス)、テルギンG(高田-マルホ)他
マレイン酸クロルフェニラミン(d1体)	アレルギン(三共)、ネオレスタミン(興和)、クロール・トリメトン注射(シェリング・プラウ)、クロダミン(マルコ)他
マレイン酸クロルフェニラミン(d体)	ポララミン(シェリング・プラウ)他
塩酸プロメタジン	ヒベルナ(三菱ウェルファーマ-吉富)、ピレチア(塩野義)
抗アレルギー薬 クロモグリク酸ナトリウム	インタール(藤沢)他
トラニラスト	リザベン(キッセイ)他
塩酸アゼラスチン	アゼブチン(エーザイ)他
メキタジン	ゼスラン(旭化成)、ニボラジン(アズウェル)、キタゼミン(大洋)他
フマル酸ケトチフェン	ザジテン(チバガイギー-ノバルティス)、ジキリオン(太田-藤沢、テイコク、和光堂)他
塩酸エピナスチン	アレジオン(ベーリンガー-三共)、アレルナシン(森下仁丹-ヘキサール)他

塩酸フェキソフェナジン	アレグラ（アベンティス）
塩酸セチリジン	ジルテック（ユーシービー-第一、住友）
塩酸オロパタジン	アレロック（協和醗酵）
ラマトロパン	パイナス（バイエル、杏林）
برانルカスト水和物	オノン（小野）
トシル酸スプラタスト	アイピーディ（大鵬）
エバステン	エバステル（大日本-明治製菓）
オキサトミド	セルテクト（協和醗酵）他

(7)抗めまい薬（乗り物酔い予防）

< 使用可能薬例 >

成分名	商品名（メーカー名）
ジフェンヒドラミン、ジプロフィリン	トラベルミン（サンノーバ-エーザイ）
ジメンヒドリナート	ドラマミン（ファイザー）

(8)胃腸薬 < 胃炎・胃潰瘍、 腹痛（鎮痙薬・粘膜分泌抑制薬） 総合健胃薬（配合薬） 胃腸機能調整薬 >

（注意）

局所麻酔薬（オキセサゼイン等）は2004.1.1から使用可能。

< 使用可能薬例 胃炎・胃潰瘍 >

分類	成分名
H₁受容体拮抗薬 シメチジン	カイロック（藤本）、タガメット（グラクソ・スミスクライン-住友）、クリエイト（太田-テイコク）他
塩酸ラニチジン	ザンタック（グラクソ・スミスクライン-三共）他
ファモチジン	ガスター（山之内）他
塩酸ロキサチジンアセタート	アルタット（帝国臓器 住友、武田）
プロトンポンプ阻害薬 オメプラゾール	オメプラゾン（三菱ウェルファーマ）、オメプラール（アストラゼネカ）
オメプラゾールナトリウム	オメプラール注用20（アストロゼネカ）
ランソプラゾール	タケプロン（武田）
ラベプラゾールナトリウム	パリエット（エーザイ）
酸中和薬 合成ケイ酸アルミニウム	合成ケイ酸アルミニウム（各社）、アルミワイス（メルクホエイ）他
乾燥水酸化アルミニウムゲル・水酸化マグネシウム	マーロックス（アベンティス・山之内）、マルファ（東洋製化-小野）他
粘膜抵抗強化薬 スクラルファート	アルサルミン（中外）他
ポラプレジンク	プロマック（ゼリア）
アズレン	アズノール（日本新薬）、ノズレン（日本ユニバーサル）他
アズレンスルホン酸ナトリウム・L-グルタミン	マーズレンS（寿-ゼリア）他
エカベトナトリウム	ガストローム（田辺-ベリンガー）
メチルメチオニンスホニウムクロリド	キャベジンU（興和）他

アルギン酸ナトリウム	アルロイドG (共成-カイゲン) 他
粘液産生・分泌促進薬 レバミピド	ムコスタ (大塚)
テブレノン	セルベックス (エーザイ) 他
ブラウノール	ケルナック (三共)
胃粘膜微小循環改善薬 塩酸ベネキサートベータデクス	ウルグート (塩野義) 他
ソファルコン	ソロン (大正-大正富山) 他
塩酸セトラキサート	ノイエル (第一) 他

< 使用可能薬例 腹痛 (鎮痙薬・粘膜分泌抑制薬) >

成分名	商品名 (メーカー名)
臭化ブチルスコポラミン	ブスコパン (日本ベーリンガー-田辺) 他
臭化メチルオクタトロピン	バルピン (三共)
臭化水素酸スコポラミン	ハイスコ (杏林)
ロートエキス	ロートエキス (各社)
臭化ブトロピウム	コリオパン (エーザイ)、ブトロパン (大洋)

< 使用可能薬例 総合健胃薬 (配合薬) >

成分名	商品名 (メーカー名)
タカジアスターゼ・メタケイ酸アルミン酸マグネシウム・炭酸水素ナトリウム・沈降炭酸カルシウム・チヨウジ末・ウイキョウ末・ケイヒ末・ショウキョウ末・サンショウ末・オウレン末・カンゾウ末	SM 散 (三共)
炭酸マグネシウム・炭酸水素ナトリウム・沈降炭酸カルシウム・リカーゼ・乾燥水酸化アルミニウムゲル・ニガキ末・ウイキョウ末・ショウキョウ末・ケイヒ末・オウバク末・カンゾウ末	つくし AM 散 (富山-大正富山) 他
ジアスターゼ・メタケイ酸アルミン酸マグネシウム・炭酸水素ナトリウム・沈降炭酸カルシウム・チヨウジ末・ウイキョウ末・ケイヒ末・ショウキョウ末・サンショウ末・オウレン末・カンゾウ末	K M 散 (東和薬品) 他

< 使用可能薬例 胃腸機能調整薬 >

成分名	商品名 (メーカー名)
ドンペリドン	ナウゼリン (協和醗酵) 他
メトクロプラミド	エリーテン (日本化薬)、テルペラン (帝国臓器-住友、武田)、プリンペラン (藤沢) 他

(9) 総合消化酵素

< 使用可能薬例 >

成分名	商品名 (メーカー名)
濃厚膵臓性消化酵素、細菌性脂肪分解酵素、アスペルギルス産生消化酵素、繊維素分解酵素	ペリチーム (塩野義)
ジアスマン、ジアスターゼ、オノテース、モルシン、ボンラーゼ、セルロシン AP、パンクレアチン、ポリパ	タフマック E (小野)

ーゼ、オノプローゼA	
ヒロダーゼ、マミターゼ、リパーゼA、セルラーゼ AP3、濃厚パンクレアチン	ポリトーゼ（武田）

(10)便秘治療薬

< 使用可能薬例 >

成分名	商品名（メーカー名）
緩下剤	
酸化マグネシウム（略称：カマ、カマゲ）	酸化マグネシウム（各社）、重質酸化マグネシウム（各社）、マグラックス（吉田）他
カルメロースナトリウム	バルコーゼ（サンノーバ-エーザイ）他
刺激性下剤	
ピサコジル	テレミンソフト坐剤（アベンティス、味の素ファルマ-日本ヘキサル）他
ピコスルファートナトリウム	ラキソベロン（帝人）、ピコダルム（日新-ゼリア）、ピコベン（日本ユニバーサル）、チャルドール（大洋、テイコク、三菱ウェルファーマ）、スナイリン（アボット）他
センナエキス	アジャストA（興和）
センナ・センナジツ	アローゼン（科薬）他
センノシド	プルゼニド（チバガイギー-ノバルティス）、センノサイド（大正薬品-日本化薬）他
その他	
炭酸水素ナトリウム・無水リン酸二水素ナトリウム	新レシカルボン（京都-ゼリア）

(11)止痢・整腸薬

< 使用可能薬例 >

成分名	商品名（メーカー名）
止痢薬	
塩酸ロペラミド	ロペミン（ヤンセン-大日本）他
タンニン酸アルブミン	タンナルピン（各社）、タンニン酸アルブミン（各社）
塩化ベルベリン	キョウベリン（ヘキサル-日本化薬）、フェロベリン（オルガノン）他
整腸薬	
ビフィズス菌	ビオスミン（ Bioフェルミン-武田）、 Bioフェルミン錠剤（ Bioフェルミン-武田）、 ビフィスゲン（住友製薬）、 ビフィダー（科研）、 ラックビー（日研）他
耐性乳酸菌	アンチ Bioフィルス（日研-明治製菓）、 エンテロノン-R（味の素ファルマ）、 エントモール（山之内）、 Bioフェルミン R（ Bioフェルミン-武田）、 レベニン（わかもと）他
ラクトミン	強力アタバニン（日東薬品-住友）、 Bioフェルミン（ Bioフェルミン-武田）他
酪酸菌	ミヤBM（ミヤリサン）、ミヤリサンBM（ミヤリサン）他
乾燥酵母	エビオス（アサヒビール-田辺）、乾燥酵母（メルク他）、ビタソート（丸石）
過敏性腸症候群治療薬	
臭化メペンゾラート	トランコロ（藤沢）他

(12)高脂血症薬

< 使用可能薬例 >

成分名	商品名（メーカー名）
HMG-CoA 阻害薬 プラバスタチンナトリウム	メバロチン（三共）他
シンバスタチン	リポバス（万有）他
フィブラート系 ベサフィブラート	ベザトールSR（キッセイ） ベザリップ（中外）他
クリノフィブラート	リポクリン（住友）他
プロブコール プロブコール	シンレスタール（第一） ロレルコ（大塚製薬）他

(13)血圧降下薬 < Ca拮抗薬、 ACE阻害薬、 アンジオテンシン 受容体拮抗薬、 遮断薬 >

<p>（注意）</p> <p>すべての利尿薬は禁止。（WADA 禁止リスト S8.隠蔽剤）</p> <p>遮断薬は競技により禁止。</p> <p>Ca拮抗薬、ACE阻害薬、アンジオテンシン 受容体拮抗薬は使用可能。</p>

< 使用可能薬例 Ca拮抗薬 >

成分名	商品名（メーカー名）
ジヒドロピリジン系 第一世代 ニフェジピン	アダラート（バイエル）、エマベリン（高田-塩野義）、セパミット（オルガノン）他
塩酸ニカルジピン	ニコデール（シエーリング）、ペルジピン（山之内）他
第二世代 ニルバジピン	ニバジール（藤沢）他
ニソルジピン	バイミカード（バイエル）他
塩酸マニジピン	カルスロット（武田）
塩酸ベニジピン	コニール（協和醗酵）
塩酸バルニジピン	ヒポカ（山之内）
第三世代 ベシル酸アムロジピン	アムロジン（住友）、ノルバスク（ファイザー）
ジルチアゼム 塩酸ジルチアゼム	ヘルベッサー（田辺）他

< 使用可能薬例 ACE阻害薬 >

成分名	商品名（メーカー名）
カプトプリル	カプトリル（三共-ブリストル）他
マレイン酸エナラプリル	レニベース（万有）他
アラセプリル	セタプリル（大日本-持田）他
塩酸デラプリル	アデカット（武田）他
シラザプリル	インヒベース（中外-エーザイ）
リシノプリル	ゼストリル（アストラゼネカ）、ロンゲス（塩野義）他

塩酸ベナゼプリル	チバセン（チバガイギー-ノバルティス）他
塩酸イミダプリル	タナトリル（田辺）、ノバロック（シエーリング）
塩酸テモカプリル	エースコール（三共-ベーリンガー）
塩酸キナプリル	コナン（三菱ウェルファーマ）
トランドラプリル	オドリック（アベンティス-日本新薬）他
ペリンドプリルエルブミン	コバシル（第一）

<使用可能薬例 アンジオテンシン 受容体拮抗薬>

成分名	商品名（メーカー名）
カンデサルタンシレキセチル	プロプレス（武田）
ロサルタンカリウム	ニューロタン（万有）
バルサルタン	ディオバン（チバガイギー-ノバルティス）
テルミサルタン	ミカルディス（ベーリンガー）
オルメサルタン メドキシミル	オルメテック（三共-興和）

<使用可能薬例 遮断薬>

成分名	商品名（メーカー名）
メシル酸ドキサゾシン	カルデナリン（ファイザー）
塩酸ブナゾシン	デタントール（エーザイ）他
塩酸ブラゾシン	ミニプレス（ファイザー）他

(14)抗狭心薬

<使用可能薬例>

成分名	商品名（メーカー名）
ニトログリセリン	ニトログリセリン、ニトロペン（日本化薬）、パソレーターRB2.5、軟膏、テープ（三和化学）、ミオコールスプレー（トーアエイヨー-山之内）、ミリスロール注射（日本化薬）、ニトロダームTTS（チバガイギー-ノバルティス）、ミリステープ（日本化薬）、ヘルツァーS（ニチバン-大鵬）
硝酸イソソルビド	ニトロール（エーザイ）、フランドル（トーアエイヨー-山之内）他

(15)催眠・鎮静・抗不安薬

（注意）

国境を越えた移動には厳重な規制があるので要注意！

フルニトラゼパム製剤（商品名：サイレース®、ロヒプノール®など）は、米国への持ち込みは量に関係なく一切禁止。

パフォーマンスの低下と、競技中の事故に注意！

<使用可能薬例>

成分名	商品名（メーカー名）
ベンゾジアゼピン誘導体 1)超短期作用型 トリアゾラム	ハルシオン（住友-ファイザー）他

2)短期作用型 エチゾラム	デパス（三菱ウエルファーマ）他
ロルメタゼパム	エバミール（シェーリング） ロラメット（ワイズ-武田）
塩酸リルマザホン	リスミー（塩野義）
3)中期作用型 フルニトラゼパム	サイレース（エーザイ）他
ニトラゼパム	ネルボン（三共） ベンザリン（塩野義）他
ロラゼパム	ワイパックス（ワイズ-武田）他
プロマゼパム	セニラン（ヘキサル） レキソタン（中外-エーザイ）
フルラゼパム	インスミン（杏林）
塩酸フルラゼパム	ベノジール（協和醗酵）他
4)長期作用型 ジアゼパム	セルシン（武田）他
5)超長期作用型 ロフラゼブ酸エチル	メイラックス（明治製菓）他
バルビツール酸誘導体 ベントバルビタールカルシウム	ラボナ（田辺）
その他 1)超短期作用型 酒石酸ゾルピデム	マイスリー（藤沢）
ゾピクロン	アモバン（アベンティス-中外、三菱ウエルファーマ）他
2)短期作用型 プロムワレリル尿素	プロバリン（日本新薬） プロムワレリル尿素（各社）

(16)抗精神病薬（悪心・嘔吐）

（注意）

パフォーマンスの低下と、競技中の事故に注意！

<使用可能薬例>

成分名	商品名（メーカー名）
プロクロルペラジン	ノバミン（武州-塩野義）
スルピリド	ドグマチール（藤沢）

(17)抗うつ薬

（注意）

パフォーマンスの低下と、競技中の事故に注意！

<使用可能薬例>

成分名	商品名（メーカー名）
マレイン酸フルボキサミン	デプロメール（明治製菓）

(18)抗てんかん薬

（注意）

パフォーマンスの低下と、競技中の事故に注意！

< 使用可能薬例 >

成分名	商品名（メーカー名）
フェニトイン	アレビアチン（大日本）、フェニトイン（協和医療開発-メルク・ホエイ）、ヒダントール（藤永-三共）
フェノバルビタール	フェノバル（藤永-三共）、フェノバルビタール（各社）他
フェノバルビタールナトリウム	ルピアール坐剤（エスエス）、ワコビタール坐剤（和光堂）
バルプロ酸ナトリウム	エピレナート（藤永-三共）、セレニカ R（日研-三菱ウエルファーマ）、デパケン（協和醗酵）、ハイセレニン（オルガノン）、パレリン（大日本）他
カルバマゼピン	テグレート（チバガイギー-ノバルティス）他

(19) 自律神経系作用薬

（注意） パフォーマンスの低下と、競技中の事故に注意！

< 使用可能薬例 >

成分名	商品名（メーカー名）
トフィソパム	グランダキシソ（持田）他

(20) 鉄欠乏性貧血薬

< 使用可能薬例 >

成分名	商品名（メーカー名）
経口用鉄剤 硫酸鉄	スローフィー（チバガイギー-ノバルティス）、テツクール S（帝国臓器-武田-住友）、フェロ・グラデュメット（大日本）他
フマル酸第一鉄	フェルム・カプセル（長生堂-日医工）
クエン酸第一鉄ナトリウム	フェロミア（サンノーバ-エーザイ）他
注射用鉄剤 コンドロイチン硫酸・鉄コロイド	ブルタール（大日本、中外）他
含糖酸化鉄	フェジン（日医工）他

(21) 痛風・高尿酸血症治療薬 < 発作治療薬、尿酸排泄促進薬、尿酸生成阻害薬、尿アルカリ化薬 >

（注意） プロベネシドは禁止物質。（WADA 禁止リスト S8.隠蔽剤） 痛風の治療薬に分類される薬は、検査時に誤解を与えないように、使用した場合には必ず申告すること。
--

< 使用可能薬例 発作治療薬 >

成分名	商品名（メーカー名）
コルヒチン	コルヒチン（塩野義、三菱ウエルファーマ）

< 使用可能薬例 尿酸排泄促進薬 >

成分名	商品名(メーカー名)
ベンズプロマロン	ユリノーム(鳥居) ムイロジン(寿)他

< 使用可能薬例 尿酸生成阻害薬 >

成分名	商品名(メーカー名)
アロプリノール	アロシトール(田辺) ザイロリック(グラクソ・スミスクライン)他

< 使用可能薬例 尿アルカリ化薬 >

成分名	商品名(メーカー名)
クエン酸カリウム・クエン酸ナトリウム	ウラリットU(ケミファ、ユーシービー、鳥居)

(22)抗菌薬、抗生物質

(注意)

ほとんどの抗菌薬、抗生物質は可能。
処方せん医薬品。

< 使用可能薬例 >

成分名	商品名(メーカー名)
ペニシリン系	
アンピシリン	ソルシリン(武田) ビクシリン(明治製菓)他
アモキシシリン	アモリン(武田) サワシリン(昭和薬品加工-藤沢) パセトシン(協和醗酵) ワイドシリン(明治製菓)他
塩酸タランピシリン	ヤマシリン(山之内)他
ピペラシリンナトリウム	ペントシリン注射(富山-大正富山)他
トシル酸スルタミシリン	ユナシン(ファイザー)
セフェム系	
第一世代	
セファレキシム	L-ケフレックス(塩野義) ケフレックス(塩野義) シンクル(旭化成) センセファリン(武田)他
セフトキシジン	オラスポア(日本チバガイギー-オラスポア)他
セファクロル	ケフラール(塩野義)他
第二世代	
塩酸セフォチアムヘキセチル	パンスポリンT(武田)
セフトキシムアキセチル	オラセフ(グラクソ・スミスクライン-三共)
第三世代(セファロスポリン系)	
セフテラムピボキシル	トミロン(富山-大正富山、昭和薬化工)
セフィキシム	セフспан(藤沢)他
セフジニル	セフゾン(藤沢)
セフボドキシムプロキセチル	バナン(三共、グラクソ・スミスクライン)
セフチブテン	セフテム(塩野義)
塩酸セフカベンピボキシル	フロモックス(塩野義)
アミノ配糖体系	
硫酸カナマイシン	カナマイシン(明治製菓) 硫酸カナマイシン(明治製菓)
テトラサイクリン系	
塩酸テトラサイクリン	アクロマイシンV(ワイス-武田)
塩酸ミノサイクリン	ミノマイシン(ワイス-武田)他

塩酸ドキシサイクリン	ビブラマイシン（ファイザー）他
マクロライド系	
エリスロマイシン	エリスロマイシン（富山-大正富山）
ロキシスロマイシン	ルリッド（アベンティス-エーザイ）
クラリスロマイシン	クラリシッド（アボット-大日本）、クラリス（大正-大正富山）
アジスロマイシン水和物	ジスロマック（ファイザー）
ジョサマイシン	ジョサマイシン（山之内、マルコ）他

(23)化学療法剤

<使用可能薬例>

成分名	商品名（メーカー名）
ニューキノロン薬	
ノルフロキサシン	バクシダール（杏林）他
オフロキサシン	タリビッド（第一）
レボフロキサシン	クラビット（第一）
エノキサシン	フルマーク（大日本）
トシル酸トスフロキサシン	オゼックス（富山化学-大正富山）、トスキサシン（アボット-大日本）
シプロフロキサシン	シプロキサ（バイエル）他
スパルフロキサシン	スパラ（大日本）
ST 合剤	
スルファメトキサゾール・トリメトプリム	バクタ（塩野義）、バクトラミン（中外）他

(24)抗真菌薬

（注意）

ほとんどの抗真菌薬は可能。

処方せん医薬品。

<使用可能薬例>

成分名	商品名（メーカー名）
イトラコナゾール	イトリゾール（ヤンセン-協和醗酵）他
塩酸テルビナフィン	ラミシール（日本チバガイギー-ノバルティス）

(25)抗ウイルス薬

<使用可能薬例>

成分名	商品名（メーカー名）
ヘルペスウイルス感染症治療薬	
アシクロビル	ゾピラックス（グラクソ・スミスクライン）他
インフルエンザ治療薬	
塩酸アマンタジン	シンメトレル（日本チバガイギー-ノバルティス）
ザナミビル水和物	リレンザ（グラクソ・スミスクライン）

リン酸オセルタミビル	タミフル(中外)
------------	----------

(26) ワクチン (薬価基準適用外)

< 使用可能薬例 >

成分名	商品名(メーカー名)
インフルエンザ HA ワクチン	インフルエンザ HA ワクチン(化血研-藤沢、北里-第一、デンカ生研)、ピケン HA(阪大微研-田辺)

(27) 経口避妊薬 (薬価基準適用外)

(注意)

ノルエチステロン(含まれる商品名例: シンフェーズ T28、ノリニール T28、オーソ M-21、オーソ 777-21)は体内でナンドロロンに代謝される成分17-エチニル-19-ノルテストステロンが含まれるため、男子が使用したり、女子でも大量に使用するとナンドロロン陽性(アンドロゲン作用)と同等と見なされる。やむをえず使用する場合は用法・容量を守り、使用の際には必ず申告すること。(競泳ナショナルチームでは『使用を控えること』とされている。)

既往症、喫煙により危険性あり。

性感染症の予防にはならない。

< 使用可能薬例 >

成分名	商品名(メーカー名)
エチニルエストラジオール、レボノゲストレル	アンジュ 21、28(帝国臓器)、トライディオール 21、28(ワイス-武田)、トリキュラー 21、28(シェーリング)、リビアン 28(山之内)

(28) 卵胞、黄体、混合ホルモン

(注意)

卵胞ホルモンは経口避妊薬としても用いられる。

黄体ホルモン、卵胞および黄体ホルモン配合剤は月経周期の移動、避妊でも用いられる。

< 使用可能薬例 >

成分名	商品名(メーカー名)
卵胞ホルモン 結合型エストロゲン	プレマリン(ワイス-武田、旭化成)
黄体ホルモン ジドロゲステロン	デュファストン(第一)
卵胞および黄体ホルモン配合剤 エチニルエストラジオール、酢酸エチノジオール	エデュレン(ファイザー)
ノルゲストレル、エチニルエストラジオール	ドオルトン(シェーリング)、プラノバル(ワイス-武田)

(29)痔疾用薬

(注意)

多くの坐薬・軟膏にはステロイドなどの禁止物質が含まれている。

似たような名前で処方異なるものに注意。ヒドロコルチゾン含有の紛らわしい薬。

(例) ポステリザン、×強力ポステリザン、×ポステリザンF

ステロイド入り軟膏は事前に『略式手続』が必要。

< 使用可能薬例 >

成分名	商品名(メーカー名)
経口剤	
メリロートエキス	タカベンス(高田)
メリロートエキス・ルチン	エスベリベン(ヘキサル)
トリベノシド	ヘモクロン(天藤-武田)他
パラフレボン・センナ末・イオウ・酒石酸水素カリウム配合	サーカネッテン(日本新薬)
プロメライン・酢酸トコフェロール	ヘモナーゼ(ジェイドルフ-小林、堀井)
坐薬・軟膏	
大腸菌死菌	ポステリザン(マルホ)
トリベノシド・リドカイン	ボラザG(天藤-武田)
シコンエキス・アミノ安息香酸エチル・塩酸ジブカイン・塩酸ジフェンヒドラミン・セトリミド	ボラギノールN(天藤-武田)
リドカイン・アミノ安息香酸エチル・次没食子酸ビスマス	ヘルミチンS(藤沢)
ロートエキス・タンニン酸	ロートエキスタンニン(佐藤)
浣腸剤	
グリセリン	グリセリン浣腸(各社)他

(30)耳鼻咽喉科用薬

(注意)

多くの点鼻薬には硝酸ナファゾリンなどの血管収縮剤やステロイドなどの禁止物質または関連物質が含まれている。

ステロイド入り点鼻薬は事前に『略式手続』が必要。

硝酸ナファゾリンなどの血管収縮剤の点鼻などの局所使用は許される。しかし、何回も多量に使用して体内に吸収されると、ドーピング違反が疑われる可能性がある。

< 使用可能薬例 >

成分名	商品名(メーカー名)
血管収縮薬	
硝酸ナファゾリン	プリピナ(日本チバガイギー-ノバルティス)
硝酸テトラヒドロゾリン	ナーベル(中外)他
アレルギー性鼻炎治療薬	
クロモグリク酸ナトリウム	インタール(藤沢)他
フマル酸ケトチフェン	ザジテン(日本チバガイギー-ノバルティス)他

(31)眼科用薬 < 感染症、 ビタミン類・疲れ目、 アレルギー性結膜炎、 その他 >

(注意)

ステロイド入り点眼薬は事前に『略式手続』が必要。

< 使用可能薬例 感染症 >

成分名	商品名(メーカー名)
抗生物質 塩酸オキシテトラサイクリン・硫酸ポリミキシン B	テラマイシン眼軟膏(日東メディックファイザー)
ラクトビオン酸エリスロマイシン・コリスチンメタンスルホン酸ナトリウム	エコリシン(参天)他
硫酸ゲンタマイシン	ゲンタシン(シェリング・プラウ)、リフトマイシン(わかもと)他
硫酸ミクロノマイシン	サンテマイシン点眼液(参天)
抗菌薬 レボフロキサシン	クラビット(参天)
オフロキサシン	タリビッド(参天)他
抗ウイルス薬 イドクスウリジン	IDU(科研)、I.D.U(住友、千寿-武田)

< 使用可能薬例 ビタミン類・疲れ目 >

成分名	商品名(メーカー名)
フラビンアデニンジヌクレオチドナトリウム	FAD(参天)、日点 FA(日本点眼薬)、ビタスト(千寿-武田)、フラピタン(トーアエイヨー-山之内)他
シアノコバラミン	サンコバ(参天)他

< 使用可能薬例 アレルギー性結膜炎 >

成分名	商品名(メーカー名)
クロモグリク酸ナトリウム	インタール(藤沢)他
フマル酸ケトチフェン	ザジテン(三共-ノバルティス)他
ペミロラストカリウム	アレギサール(参天)、ペミラストン(プリストル)
塩酸レボカバステン	リボスチン(ヤンセン-参天、日本新薬)
トラニラスト	リザベン(キッセイ)、トラメラス(日本点眼)

< 使用可能薬例 その他 >

成分名	商品名(メーカー名)
ホウ酸・塩化ナトリウム・塩化カリウム・乾燥炭酸ナトリウム・リン酸水素ナトリウム	人工涙液マイティア(千寿-武田)
ヒアルロン酸ナトリウム	オベガン(生化学-参天)、オペリード(資生堂-千寿)、ヒーロン(ファイザー)、ヒアレイン(参天)他
プラノプロフェン	ニフラン(千寿-武田)他

(32)口腔用薬

< 使用可能薬例 >

成分名	商品名（メーカー名）
含嗽薬 アズレンスルホン酸ナトリウム	アズノール・ガーグル（日本新薬） マズレニンG（丸石）他
アズレンスルホン酸ナトリウム、 炭酸水素ナトリウム	含嗽用ハチアズレ（東洋製化-小野）他
ポピドンヨード	イソジンガーグル（明治製菓）他
口腔内炎症治療薬 アズレンスルホン酸ナトリウム	アズノールST（日本新薬） アズレミック（東洋製化-小野）他
殺菌消毒薬 塩化デカリニウム	SP トローチ明治（明治製菓）他

(33)皮膚用薬（平成 16 年 7 月 15 日 一部修正）

（注意）

ステロイド入りの局所・関節内注射は事前に『略式手続』が必要。

< 使用可能薬例 >

成分名	商品名（メーカー名）
抗菌薬 硫酸フラジオマイシン	フラジオ軟膏（日本化薬） ソフラチュール（アベンティス）
硫酸ゲンタマイシン	ゲンタシン（シェリング・プラウ）他
アトピー性皮膚炎治療薬 タクロリムス水和物	プロトピック（藤沢）
外用抗ヒスタミン剤 ジフェンヒドラミン	レスタミン軟膏（興和）
非ステロイド系消炎・鎮痛薬 フェルピナク	ナバゲルン（ワイス-武田）他
ブフェキサマク	アンダーム（ワイス-武田） サリベドール（メルク）他
消炎・鎮痛パップ剤 インドメタシン	インサイドパップ（エスエス） イドメシンコーワパップ（テイカ-興和） カトレップ（帝國-住友）他
ケトプロフェン	ミルタックス（埼玉第一-第一） モーラス（久光）他
フルルピプロフェン	アドフィード（リードケミカル-科研）他
その他 マルサカルシトール	オキサロール（中外-マルホ）

(34)消毒薬

< 使用可能薬例 >

成分名	商品名（メーカー名）
グルコン酸クロロヘキシジン	ヒピテン（住友製薬） クロヘキシジン液（東洋製化 小野）
塩化ベンザルコニウム	逆性石鹼(各社)他
ポピドンヨード	イソジン（明治製菓） マイクロシールド PVP（ジョンソン）

(35)電解質補液

< 使用可能薬例 >

成分名	商品名(メーカー名)
開始液(ブドウ糖 2.6%)	ソリタ T1 号(清水-味の素ファルマ)、ソルデム 1(テルモ)、リブラス 1S(扶桑)他
維持液(ブドウ糖 4.3%)	ソリタ T3 号(清水-味の素ファルマ)、ソルデム 3A(テルモ)、ハルトマン G3 号(小林製薬)他
ブドウ糖加乳酸リンゲル液(ブドウ糖 5%)	ソルラクト D(テルモ)、ラクテック D(大塚工場)、ハルトマン D(小林製薬)
乳酸リンゲル液	ソリタ(清水-味の素ファルマ)、ソルラクト(テルモ)、ハルトマン液(ニプロファーマ)、ラクテック(大塚工場)、ラクトリンゲル液(扶桑)他

3.特に気をつけたい一般用医薬品(大衆薬)

1)禁止物質、ストリキニーネ(ホミカ)を含む胃腸薬、滋養強壮薬

ストリキニーネ(ホミカ)は興奮剤として禁止され、検出されれば直ちに違反です。大会期間中に胃腸薬を使う場合は含まれていないことを確認し、国体の1週間前には使用しないようにしましょう。

(例)使ってはいけない胃腸薬

イノセア消化薬(佐藤製薬)	ガロニン錠(全薬工業)
スーサン消化促進錠(中外医薬生産)	どくじんA錠(東宝製薬)
パンクターゼ(小林薬品工業)	パンジラス顆粒(第一薬品-白石薬品)
ホミカロート錠(佐藤製薬)	ワクナガ胃腸薬G(湧永製薬)
救胆(島伊兵衛薬品)	金魚胃腸薬(大和合同製薬)
済仁(森本製薬)	新メラゼ(佐藤製薬)
新レスク(師治堂製薬)	赤玉はら薬(大和合同製薬)
大昭晴快散(大昭製薬)など	

(例)使ってはいけない滋養強壮薬

ハンピロン(日本薬品) マヤ金蛇精カプセル(摩耶堂製薬)など

2)禁止物質、蛋白同化剤(テストステロン)及び関連物質を含む滋養強壮薬、毛髪用薬

蛋白同化剤(テストステロン)及び関連物質を含む漢方薬が含まれているので、国体期間中に限らず、日常の使用はしないようにしましょう。

* 蛋白同化剤及び関連物質には、テストステロン、メチルテストステロンの他に、生薬成分である、海狗腎(カイクジン)、麝香(ジャコウ)、鹿茸(ロクジョウ)、松脂(ロジン)、鹿鞭(ロクベン)があります。

(例)使ってはいけない毛髪用薬

ハツモール・軟膏(体毛用)(田村治照堂)	ペレウス(協和新薬-キョーワメディカル銀座)
マイクロゲン・パスタ(啓芳堂製薬)	マイクロゲンパスタS(啓芳堂製薬)など

(例)使ってはいけない滋養強壮薬

延寿回生(広貫堂-大和製薬・愛)	オットローヤル(牛津製薬-日邦薬品工業)
活力・M(東南製薬)	オットピン-S(プロ・シール)
オノック(キクリウ製薬)	外用ホルモン塗布剤オットピン(プロ・シール)
強力パロネス(日新製薬)	強力ラルル(精進堂製薬)
金蛇精「糖衣錠」(摩耶堂製薬)	ツンバ(堀井薬品工業)
トノス(大東製薬工業)	プリズマホルモン錠(原沢製薬工業)
プリズマホルモン精(原沢製薬工業)	ヘヤーグロン(大東製薬工業)
マヤ金蛇精(カプセル)(摩耶堂製薬)など	

3)その他

漢方薬

たくさんの複雑な成分が含まれ、調べるのが困難です。漢方薬にも明らかに禁止物質を含むものがあり、麻黄はその代表です。さらに名前が同じでも製造会社、原料の産地、収穫の時期などで成分が違ふことがあります。また、カタカナ表記で西洋薬と間違えてしまうような漢方薬もあります。

サプリメント

サプリメントは「健康食品」、「保健機能食品」です。製造・販売の規制が厳しくないの成分表示が信頼できるものばかりではありません。実際に表示されていない禁止物質が混入されている商品もあり、評判を上げるために意図的に行われていることもあります。

(注意) 2004.4、米国食品医薬品局 (FDA) は「エフェドラ (エフェドリン類)」成分を含むサプリメントの販売を禁止。2004.3.11、アンドロ配合サプリメントの販売を自主的に中止するよう通知しましたが、流通している可能性は否定できません。

ビタミン

ビタミン剤は禁止されていません。しかし、ビタミン類に種々の強壯剤を配合した製剤、特に外国製品には禁止物質を含むものがあります。

アミノ酸

最近、アミノ酸含有のスポーツドリンクが流行です。アミノ酸そのものはドーピング物質にあたらないのですが、スポーツドリンクには製品によってさまざまな天然物 (ホルモン性の天然・合成成分) を添加したものもありますから注意が必要です。

滋養強壯剤

医薬品であっても、蛋白同化剤が含まれているもの、あるいはおなじような作用をする漢方薬系の医薬品があります。また、医薬品でないものやドリンク剤も市販されています。**これらの薬剤は、日頃から決してとらないようにしましょう。**

4.ドーピング検査 Q&A

財団法人日本体育協会

- Q1. ドーピングとは何ですか？
- Q2. ドーピングは何故いけないのですか？
- Q3. 禁止薬物・方法を教えてください
- Q4. ドーピング検査はどのようなものですか？
- Q5. 競技外ドーピング検査はどのようなものですか？
- Q6. 競技会で事前申告が必要な薬がありますか？
- Q7. 競技会ドーピング検査はどのように行なわれますか？
- Q8. お茶やコーヒーに含まれるカフェインは大丈夫ですか？
- Q9. 市販の薬にも禁止物質は含まれていますか？
- Q10. 検査で陽性になったらどうなりますか？
- Q11. 風邪のときはどうしたらよいですか？
- Q12. 治療のために医師から薬を処方されていますが、大丈夫ですか？
- Q13. わからないときはどこに相談したらいいですか？

Q 1 ドーピングとは何ですか？

A 1 ドーピングとは競技能力を高めるために薬物などを使用することで、ルールで禁止されています。

ルールでは禁止リストに示される物質の使用や方法がドーピングにあたります。ドーピング検査で禁止物質が検出されれば、治療目的であっても制裁が課されますので、ルールをよく理解しておく必要があります。

Q 2 ドーピングは何故いけないのですか？

A 2 (1) 競技者の健康を害する、(2) フェアプレーの精神に反する、(3) 反社会的行為である、という理由で禁止されています。「ずる」くて「危険」な行為を容認することは健全なスポーツの発展を妨げます。

Q 3 禁止薬物・方法を教えてください

A 3 WADA 禁止リスト(2004.1.1 発効)は、(1) 競技会検査での禁止物質と禁止方法 (2) 競技会検査および競技外検査での禁止物質と禁止方法(3) 特定競技で禁止される物質(4) 指定物質 (5) 監視プログラムに分類されています。詳しくはリスト(p.34~35)を参照して下さい。

Q 4 ドーピング検査はどういうものですか？

A 4 ドーピング検査は尿を採取し、これを WADA 公認検査機関で分析します。ドーピング検査には「競技会検査」と「競技外検査」とがあります。国体ドーピング検査では、大会直前および大会期間中に両方の検査を行います。

禁止リストの分類にあるように、「競技会検査」ではすべての禁止物質・方法が対象となりますが、「競技外検査」では蛋白同化剤、利尿剤、隠蔽剤など一部が対象となります。

Q 5 競技会外検査はどういうものですか？

A 5 トレーニング期間中の不正を防ぐため、また競技者のクリーンさを証明するために行なわれます。トレーニング期間中に事前の通告なしに実施されることが多いですが、採尿等の手続きは競技会検査と基本的に同じです。なお、国体ドーピング検査では、事前に（遅くとも 2 日前まで）通知され、選手は指定時間に検査室へ出向いて検査を受けます。

Q 6 競技会で事前申告が必要な薬がありますか？

A 6 ぜん息吸入薬（ β -刺激剤）を使用する場合には、書面による事前申告が必要で、国体でも同様です。副腎皮質ステロイドの局所使用も事前申告が必要ですが、国体では検査時に申告します。なお局所麻酔剤は、2004 年禁止リストで禁止物質から除外されました。

Q 7 競技会ドーピング検査はどのように行なわれますか？

- A 7** (1) 通告：検査対象者は競技終了後に担当者から通告されます。
(2) 出頭：通告されたら、決められた時間までにドーピング検査室に行かなければなりません。検査を拒否するとドーピング検査陽性とみなされます。検査室には 1 人の付き添いが認められます。
(3) 採尿：採尿容器を選び、同性の係員の立会いのもとに採尿します。
(4) 分注・封印：検体容器を選び、尿を A・B2 つの検体容器に分注し、封をします。
(5) 薬物の申告：3 日以内に使用した薬物を申告します。
(6) 署名：検査用紙の記載内容、手続きに問題がなかったかを確認して署名します。検査用紙控えを受け取り保管しておきます。

Q 8 お茶やコーヒーに含まれるカフェインは大丈夫ですか？

A 8 カフェインは、2004 年禁止リストにおいて禁止物質からはずれました。したがって、お茶やコーヒーに特別の注意をはらう必要はなくなったといえます。ただし、カフェインなどは監視対象としてモニターされ、その結果では近い将来再び禁止される可能性もあり、注意しておきたいところです。

Q 9 市販の薬にも禁止物質は含まれていますか？

A 9 市販の総合感冒薬や鼻炎用内服薬のほとんどにはエフェドリンなどの禁止物質が含まれています。葛根湯など一部の漢方薬には麻黄を含むものがありますが、麻黄には禁止物質のエフェドリンが含まれています。

強精剤の一部には禁止物質のメチルテストステロン（蛋白同化剤）が含まれています。海外で栄養補助食品として、市販されている DHEA（デヒドロエピアンドロステロン）、アンドロステンジオンは禁止物質です。

海外で市販されている鼻づまりの吸入薬の中には、デソキシエフェドリン（覚醒剤）の含まれているものがあり、ドーピングだけではなく日本国内への持ち込みも禁止です。

市販の薬や栄養補助食品を使用する際には必ず成分を確認し、ドーピングに詳しいドクターに相談して下さい。

Q 10 検査で陽性になったらどうなりますか？

A 10 A 検体から禁止物質が検出され、本人が認めればドーピング検査陽性となり、制裁が課されます。

本人が要求すれば B 検体の確認検査が行なわれます。B 検体も A 検体と同じ所見であればドーピング検査陽性となり制裁が課されますが、制裁を決定する前に本人には弁明の機会が与えられます。

制裁には成績・記録の抹消、資格停止などがあります。

Q 11 風邪のときはどうしたらよいですか？

A 11 症状に応じて禁止物質でない薬がありますから、医師から適切な処方を受けて下さい。

競技会と 1 週間以上期間があいていれば、市販の総合感冒薬でも服用できます。適切な判断が下せるのであれば、心配ありません。

Q 12 治療のために医師から薬を処方されていますが、大丈夫ですか？

A 12 病気の治療薬にも禁止物質があります。たとえば、(1) ぜん息の内服薬・吸入薬、(2) 痛風でのプロベネシド（尿酸排泄剤）、(3) 高血圧の β -遮断剤・利尿剤などです。

処方される薬については主治医から良く説明を受けて、薬物名を記録しておきます。一般の医師で判断に迷う場合は、ドーピングに詳しいスポーツドクターにチェックしてもらいます。

通常は禁止物質以外の薬で十分治療できます。治療のために禁止物質がどうしても必要な特殊な場合には、事前に競技の医事責任者に相談して下さい。禁止物質の治療目的使用制度（TUE）に則って所定の書式で申請し、認められれば使用できます。

Q 13 わからないときはどこに相談したらいいですか？

A 13 ドーピングコントロールは競技によって異なります。まず、所属する競技団体の医事委員会に問い合わせて下さい。また、国体選手であれば、都道府県体育協会に問い合わせて下さい。

■ 競技会検査での禁止物質および禁止方法

禁止物質	
S1	興奮剤
	アドラフィニル、アンフェプラモン、アミフェナゾール、アンフェタミン、アンフェタミニル、ベンズフェタミン、プロマンタン、カルフェドン、カチン、クロベンゾレックス、コカイン、ジメチルアンフェタミン、エフェドリン、エチルアンフェタミン、エチレフリン、フェンカンファミン、フェネチリン、フェンフルラミン、フェンプロボレックス、フルフェノレックス、メフェノレックス、メフェンテルミン、メソカルブ、メタンフェタミン、メチルアンフェタミン、メチレンジオキシアンフェタミン、メチレンジオキシメタンフェタミン、メチルエフェドリン、メチルフェニデート、モダフィニル、ニケタミド、ノルフェンフルラミン、パラヒドロキシアンフェタミン、ペモリン、フェンジメトラジン、フェンメトラジン、フェンテルミン、プロリントアン、セレギリン、ストリキニーネ
S2	麻薬性鎮痛剤
	ブプレノルフィン、デキストロモラミド、ジアモルヒネ(ヘロイン)、ヒドロモルフォン、メサドン、モルヒネ、オキシコドン、オキシモルフォン、ペンタゾシン、ペチジン
S3	カンナビノイド類(ハシシュ、マリファナなど)
S4	蛋白同化剤
	1. アナボリック・アンドロジェニック・ステロイド(AAS)
	a. 外因性: アンドロスタジエノン、ボラステロン、ボルデノン、ボルジオン、クロステボール、ダナゾール、デヒドロクロロメチルテストステロン、デルタ-アンドロステン-3、17-ジオン、ドロスタノロン、ドロスタンジオール、フルオキシメステロン、フォルメボロン、ゲストリノン、4-ヒドロキシテストステロン、4-ヒドロキシ-19-ノルテストステロン、メスタノロン、メステロロン、メタンジエノン、メテノロン、メタンドリオール、メチルテストステロン、ミボレロン、ナンドロロン、19-ノルアンドロステンジオール、19-ノルアンドロステンジオン、ノルボレトン、ノルエタンドロロン、オキサボロン、オキサンドロロン、オキシメステロン、オキシメトロン、キンボロン、スタノゾロール、ステンボロン、1-テストステロン(デルタ 1-ジヒドロ-テストステロン)、トレンボロン
	b. 内因性: アンドロステンジオール、アンドロステンジオン、デヒドロエピアンドロステロン(DHEA)、ジヒドロテストステロン、テストステロン
	2. その他の蛋白同化剤
	クレンプテロール、ゼラノール
S5	ペプチドホルモン
	1. エリスロポエチン(EPO)
	2. 成長ホルモン(hGH)とインスリン様成長因子(IGF-1)
	3. 胎盤性性腺刺激ホルモン(hCG)(男性のみで禁止)
	4. 下垂体性および合成性性腺刺激ホルモン(LH)(男性のみで禁止)
	5. インスリン
	6. コルチコトロピン類
S6	β_2 -作用薬
	(フォルモテロール、サルブタモール、サルメテロール、テルブタリンに限って吸入が使用できる)
S7	抗エストロゲン作用薬
	アロマターゼ阻害薬、クロミフェン、シクロフェニル、タモキシフェン(男性のみ禁止)
S8	隠蔽剤
	利尿剤、エピテストステロン、プロベネシド、血漿増量剤(例:デキストラン、ヒドロキシエチルデンプン)
	利尿剤: アセタゾラミド、アミロリド、ブメタニド、カンレノン、クロルタリドン、エタクリン酸、フロセミド、インダパミド、マーサリル、スピロノラクトン、チアジド類(ベンドロフルメチアジド、クロロチアジド、ヒドロクロロチアジドなど)、トリアムテレン

S9 糖質コルチコイド類
経口投与、直腸投与、静脈投与、筋肉投与について禁止。局所使用は事前申告。
禁止方法
M1. 酸素運搬能の強化
a. 血液ドーピング
b. 酸素の摂取、運搬又は輸送促進：エリスロポエチン、組み換えヘモグロビン製剤などの修飾ヘモグロビン製剤、ヘモグロビンのマイクロカプセル製剤、過フルオロ化合物、エファプロキシラル(RSR13)
M2. 薬理的・化学的・物理的操作
M3. 遺伝子ドーピング

■ 競技会検査および競技外検査での禁止物質および禁止方法

禁止物質
S4 蛋白同化剤
S5 ペプチドホルモン
S6 β_2 -作用薬
S7 抗エストロゲン作用薬
S8 隠蔽剤
禁止方法
M1. 酸素運搬能の強化
M2. 薬理的・化学的・物理的操作
M3. 遺伝子ドーピング

■ 特定競技で禁止される物質

P1. アルコール
P2. β_2 -遮断剤
P3. 利尿剤

■ 指定物質

興奮剤：エフェドリン、L-メチルアンフェタミン、メチルエフェドリン
カンナビノイド
β_2 -作用薬の吸入剤（クレムテロールを除く）
利尿剤（特定競技で禁止される物質の p3 項のものは除外）
隠蔽剤：プロベネシド
糖質コルチコイド
β_2 -遮断剤
アルコール

■ 監視プログラム

興奮剤：競技会検査のみ：カフェイン、フェニレフリン、フェニルプロパノールアミン、ピプラドロール、ブソイドエフェドリン、シネフリン
麻薬性鎮痛剤：競技会検査のみ：モルヒネ/コデイン比

5 . 略式手続について（2004年7月15日 修正）

β_2 -作用薬（吸入に限る）、糖質コルチコイドの局所使用の場合、事前に医師による

「略式手続」がなされ、受理されれば例外的に使用することができます。

(参考)

**治療薬を使っている場合の事前申請
(ドーピング・コントロール医事申請のしかた)**

ドーピング禁止物質あるいは禁止方法であっても、事前に所定の手続きによって治療目的使用の適用措置 (Therapeutic Use Exemption ;TUE、以下TUEといいます) が認められれば、例外的にその禁止物質・禁止方法を使用することができます。ただし、書類が不備であったり、使用が許可されなければ、医療上の理由で使用しても「ドーピング違反」と判断されることがあるので、十分注意して手続きを行って下さい。

TUE には次の二種類があり、扱いが異なります。

	標準申請	略式手続
対象物質	禁止物質一般 (インスリンを含む)	₂ -作用剤(吸入に限る) 糖質コルチコイドの局所使用
提出書類	標準医事申請書	略式手続(申請書)
書類の入手方法	所属の都道府県体育協会、日本体育協会、日本アンチ・ドーピング機構から入手する	
提出期限	夏季；2004年8月10日まで 秋季；2004年9月21日まで 冬季；スケート競技会； 2004年12月20日まで アイスホッケー競技会； 2005年1月4日まで スキー競技会； 2005年1月21日まで	大会直前まで受け付ける
提出先	日本体育協会国体委員会医事部長宛	
認可	JADA で審査し、結果を申請者に連絡	JADA が申請書を受理した段階で有効。ただし、不備な書類は返却。
表記言語	日本語を用いる。ただし国際大会出場が予定される選手は英語表記のこと	
注意	書類は原則として、郵便で送るものとする (緊急時にはファックスも可)	

6. 彩の国まごころ国体医薬品等配備品目一覧（救護所用）

(No1)

医薬品等	規格	数量
(注射薬：5品目)		
ラクテックG(輸液用剤)	500ml×10袋	1
5%ブドウ糖	20ml×50A	1
1%カルボカイン(局所麻酔剤)	5ml×10A	1
生理食塩液	20ml×50A	1
生理食塩液	100ml×10V	1
(内用薬：12品目)		
ニトロール錠(5mg)(狭心症用剤)	100T	1
アネトン顆粒(鎮咳剤)	12P	2
新三共胃腸薬細粒(胃薬)	52P	1
新ビオフェルミンS錠(整腸剤)	45T	1
新ビオフェルミン止瀉薬(下痢止め)	12P	2
パファリンA錠(解熱剤)	40T	1
小児用パファリン液チュアブル(解熱剤)	12T	1
ブスコパン錠(鎮痙剤)	100T	1
アレルギール錠(抗アレルギー用剤)	55T	1
ケフラールカプセル(250mg)(抗生物質)	100C	1
ナウゼリン錠(5mg)(制吐剤)	100T	1
アダラートL(10mg)(循環器用剤)	100T	1
(外用剤：4品目)		
サロンパス30(消炎鎮痛剤)	60枚入り	2
バンテリンコーワゲル(鎮痛剤)	35g	3
ソフラチュール(抗生物質製剤ガーゼ)	10枚入り	3
マイティプラス点眼剤(点眼剤)	15ml	4
(消毒剤：5品目)		
0.05%ヒビディール液	25ml×20P	3
オキシフル	500ml	1
消毒用エタノールスプレー(手指消毒用)	200ml	2
ムヒのきず薬	75ml	3
ワンショットプラス	60枚×3	1
(処置用器材：11品目)		
アルフェンスシーネ	No12	2
アルフェンスシーネ	No13	2
ソフトシーネ(大)	100×810×25	1
ソフトシーネ(中)	80×620×20	1
ソフトシーネ(小)	60×500×20	2
ピンセット(デスポ)	130mm 50本入り	1
膿盆(大)(デスポ)	142×306×62	1
膿盆(小)(デスポ)	97×208×43	1
駆血帯	井の内式	1
コールドスプレー	330ml ニトリ	3
はさみ(雑鉄)		1
(診療用器材：4品目)		
電子体温計(デジタル)	ケース入り	2
血圧計	アネロイド式(ケース入り)	1
聴診器	リットマン型(ケース入り)	1
ペンライト	(単4電池入)	1

(衛生材料：32 品目)		
絆創膏 (紙バン)	9mm 10 個入	1
絆創膏 (ニチバンH50)	50×5000mm	1
救急絆 (オーキュバンエコM)	100 枚入	1
滅菌ガーゼ (ケーパイン)	No7561 5×5cm (100 枚入)	1
滅菌ガーゼ (ケーパイン)	No7565 7.5×10cm (100 枚入)	2
カットバン (ジャンボサイズS)	70×50 (12 枚入)	3
カットバン (ジャンボサイズL)	110×75 (7 枚入)	5
滅菌綿棒ハクジュウジ1号	10 本入	10
カット綿 (滅菌)	5×5 滅菌 (12 枚入)	5
三角巾	特大	5
四角巾 (ブルードレープ)	10 枚入	2
弾性包帯 (エースタイ)	5×4.5cm 伸長 (36 個入)	1
網包帯 (サージフィス)	2.5×25cm 伸長	3
網包帯 (サージフィス)	6.0×25cm 伸長	3
マスク (サージカルマスク)	一重ゴム付 (100 枚)	1
ディスポ手袋 (M) 100 枚入 1 ラテックスゴムパウダ付	100 枚入	1
油紙	100 枚入り	1
ナプキン	ソフィーボディーフット羽なし 38P	1
テーピングテープホワイトテープ	25mm×9m	2
テーピングテープ (大)	50mm×12m	2
テーピングテープ (中)	25mm×12m	2
テーピングテープ (小)	12mm×12m	2
氷用ビニール袋 (コールドバック使い捨て)	メッカコールドバック 26.5×15cm (4 袋)	3
アイスノン	600g	5
携帯用即冷パック (ヒヤロンミニ)	10 個入	2
ペットボトル飲料 (電解質含有：熱中症用)	スポーツドリンク 500ml	100
タオル	無地綿 100%	10
紙コップ	200cc (100 個入)	1
石けん	薬用 100g	2
軽便カミソリ		2
ビニール袋	20×12.5cm 200 枚	1
ビニール袋	31×20.5cm 50 枚	1
(救急蘇生用具：2 品目)		
携帯用人工蘇生器	ブルークロスAC-HA-2	1
AED		1
(注射器・注射針：5 品目)		
シリンジ22G 針付き (5ml：ディスポ)	テルモシリンジ (100 本入)	1
シリンジ22G 針付き (20ml：ディスポ)	テルモシリンジ (50 本入)	1
ディスポ翼付静脈針 (21G)	テルモ (50 本入)	1
ディスポ翼付静脈針 (23G)	テルモ (50 本入)	1
輸液セット (点滴セット)	テルモ輸液セット (50 本入り)	1
(その他：7 品目)		
パルスオキシメーター	カシオ一体型FO-0001	1
医薬品等収納容器 (衣装ケース)	引き出しボックス	2
医薬品等収納容器 (衣装ケース)	5 段引き出しボックス	1
熱中症指標計	ミズノWBGT-103	1
ミドリ安全オーツーパーックA型 (酸素吸入)		3
濃縮酸素サンソクン (酸素吸入)	オカモト	3
クーラーボックス	20L	1

7. 彩の国まごころ国体ホットラインサービスについて

(ドーピング禁止薬に関する問い合わせ)

1) 受付期間

大会前1週間から大会終了まで

夏期大会時：平成16年 9月 6日(月)～平成16年 9月14日(火)

秋期大会時：平成16年10月18日(月)～平成16年10月28日(木)

2) 受付時間

AM9:00～PM5:00

3) 問い合わせ方法

専用用紙によるFAX送信

4) 問い合わせ先

薬局・薬店の方

社団法人埼玉県薬剤師会 情報センター

電話番号：(048) 653-4466

FAX番号：(048) 667-5580

病院・診療所の方

社団法人埼玉県医師会 地域医療課

FAX番号：(048) 822-8515

顧問医・監督の方

財団法人埼玉県体育協会

FAX番号：(048) 822-5174

5) 回答方法

原則、FAXによる回答

6) 注意事項

お問い合わせに対する調査は時間を要するため、即答はできません。また、内容により、日本体育協会へ問い合わせをするため、回答に1～3日かかる場合があります。

問い合わせ先の および は、土および日曜日がお休みとなっております。

選手からの問い合わせについては、行き違い等によるトラブルを避けるため受け付けておりません。

コピーしてご使用ください。

ドーピング禁止薬に関する問い合わせ専用用紙

氏名：

所属：

電話番号：

ファックス番号：

問い合わせ薬物または商品名(会社名) フルネームで正確に記載してください。

1.	(<hr/>)
2.	(<hr/>)
3.	(<hr/>)
4.	(<hr/>)
5.	(<hr/>)
6.	(<hr/>)

監督の方へ 商品パッケージや効能書きなどがありましたら、同時に送信してください。

送 信 先

薬局・薬店の方

FAX:(048) 667-5580 社団法人埼玉県薬剤師会 情報センター

病院・診療所の方

FAX:(048) 822-8515 社団法人埼玉県医師会 地域医療課

顧問医・監督の方

FAX:(048) 822-5174 財団法人埼玉県体育協会

コピーしてご使用ください。

購入医薬品記載シート

(薬を販売した際、記入して選手に渡してください)

下記の品を販売しました。

--

年 月 日

店舗名

管理薬剤師名

住 所

電話番号 ()

選手必携書に購入品の名前と服用年月日、服用量をお書きください。
医薬品等の説明書や箱は捨てずにお持ちください。

コピーまたは切り取ってご送付ください。

彩の国まごころ国体アンチドーピング活動に関するアンケート

アンチドーピングへの活動状況を把握するためのアンケートです。ご協力ください。

支部名	
店舗名（回答者名）	（ ）
電話番号	

1. 何人の国体選手が店舗に来られましたか。 _____人

2. いつ、何について相談され、何を購入されましたか。

日付	相談項目	購入品目

3. 相談にあたって、ガイドブックは役に立ちましたか？

（ ）はい （ ）いいえ 理由（ ）

4. 店舗に来られた選手、コーチから出された意見等がありましたら、ご記入ください。

--

5. 販売上、問題・課題点等がありましたら、ご記入ください。

--

6. その他、アンチドーピング活動に関するご意見・ご感想をご記入ください。

--

ありがとうございました。

お手数ですが、FAXにより（社）埼玉県薬剤師会までご提出願います。

（埼玉県薬剤師会 / FAX 048-667-5580）

薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック

2004年7月12日 発行

編集

(社)日本薬剤師会 アンチ・ドーピングに関する特別委員会

工藤 義房、石井 甲一、杉下順一郎、藤井 壽夫、村瀬 一郎、藤垣 哲彦、
石井 美江、大石 順子、木下 力、高野 博徳、寺澤 孝明、本田 昭二

(財)日本体育協会 アンチドーピング部会ドーピングデータベース作業班

服部 光男、伊藤 静夫、植木 眞琴、大石 順子、塚越 克己、寺澤 孝明、
矢地 孝、渡辺 一夫

(社)埼玉県薬剤師会

編集協力

(財)埼玉県体育協会スポーツ科学委員会・アンチドーピング小委員会

彩の国まごころ国体実行委員会

(社)静岡県薬剤師会

発 行 (社)日本薬剤師会

〒150-8389 東京都渋谷区2丁目12番15号

電 話 03(3406)1171 F A X 03(3406)1499

E-mail di@nichiyaku.or.jp

印 刷 興和印刷株式会社
